

今日を愛する。

LION

ライオンCSR報告書 2017



「今日を愛する。」ことは、
一生を大切にすること。

CONTENTS

| | |
|----|--|
| 01 | ライオンについて |
| 04 | トップメッセージ |
| 06 | 社是・経営理念・ライオン企業行動憲章 |
| 07 | コーポレートメッセージ |
| 08 |  ライオンのCSR |
| 09 | ライオンの社会・環境貢献活動の全体像 |
| 10 | ライオングループの事業活動の歴史 |
| 12 | ライオングループのCSR管理体制の構築 |
| 14 | CSR重要課題に関する中期経営計画における目標と2016年実績 |
| 18 | 2016年ハイライト 01 ライオングループの国内外での衛生習慣啓発活動 |
| 24 | 2016年ハイライト 02 仕事と介護・仕事と育児両立支援への取り組み |
| 26 | 2016年ハイライト 03 千葉工場 排水リサイクルシステムの本格稼働 |
| 28 |  組織統治 |
| 31 |  人権 |
| 32 |  労働慣行 |
| 36 |  環境 |
| 42 |  公正な事業慣行 |
| 44 |  消費者課題 |
| 49 |  コミュニティへの参画および発展 |
| 52 | 第三者所見 |
| 53 | ライオンから／編集後記 |

編集方針

当社は、CSR報告書を「CSRへの取り組みを開示し、ステークホルダーの声を取り入れながら、活動をさらに進めていくための重要なツール」と位置づけています。

CSR報告書2017編集方針

- 2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿ってCSR活動の体系化を進めており、報告書もそれに合わせた構成にしています。
- CSR報告書2017では、重要なCSR課題と当社の経営計画に合わせた2017年中期目標に対する2016年の進捗を開示しています。
- 特に進捗した活動を「2016年ハイライト」として詳しく掲載し、その活動内容を把握しやすくしています。
- ISO26000の各中核主題別のページの最後に、活動の詳細が掲載されているWebサイトのURLを記載しています。
- 当社の主なWebページのURLを二次元コード化(スマートフォン対応サイト)し、アクセスしやすくしています。
- 読みやすさに配慮して開発された「つたわるフォント」を採用しています。
- 客観的な評価を示すため、外部有識者から第三者所見を受け、掲載しています。
- 当報告書の作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード」を参照しています。
- 当報告書に掲載しきれなかった情報を含め、当社のCSR活動についてはWebサイトで網羅的に掲載しています。

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- グローバル・レポート・イニシアティブ「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード」
- 日本規格協会「ISO26000:2010社会的責任に関する手引」

[各種ガイドライン 対照表]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/guideline/>

対象組織

- ライオン株式会社および国内のすべての連結子会社を基本としています。p14-17のCSR中期目標および実績は、海外グループ会社も含まれます。
*掲載する活動やデータについて対象範囲が異なる場合は、個々にその旨を明記しています。

対象期間

- 2016年1月1日～2016年12月31日
(ただし、活動内容は一部2017年の取り組みを含んでいます。)



ライオンについて

《 会社概要 》

| | |
|-------|--|
| 商号 | ライオン株式会社 (Lion Corporation) |
| 本社所在地 | 〒130-8644 東京都墨田区本所一丁目3番7号 |
| 創業 | 1891年(明治24年)10月30日 |
| 資本金 | 344億3,372万円(2016年12月31日現在) |
| 代表者 | 代表取締役社長 濱 逸夫 |
| 従業員数 | 連結:6,895名 単独:2,510名(2016年12月31日現在) |
| 売上高 | 連結:3,956億円 単独:2,609億円(2016年12月期) |
| 工場 | 千葉工場(市原市)、小田原工場(小田原市)、 大阪工場(堺市)、明石工場(明石市) |
| 研究所 | 平井(江戸川区)、小田原(小田原市) |
| オフィス | 札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡 |

[グループ・関連会社一覧]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/group/>

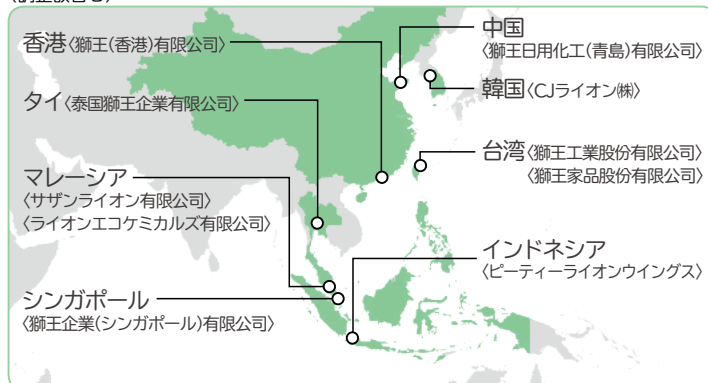
《 セグメント別売上高 》

| | |
|-------------|-----------|
| 一般用消費財事業 | 2,870.2億円 |
| ・オーラルケア分野 | 635.9億円 |
| ・ビューティケア分野 | 223.3億円 |
| ・ファブリックケア分野 | 802.4億円 |
| ・リビングケア分野 | 207.6億円 |
| ・薬品分野 | 409.5億円 |
| ・その他の分野 | 591.3億円 |
| 産業用品事業 | 543.3億円 |
| 海外事業 | 1,109.3億円 |
| その他 | 268.6億円 |
| 調整額* | ▲835.5億円 |
| 連結売上高 | 3,956.0億円 |

*各セグメント内、セグメント間の売上高

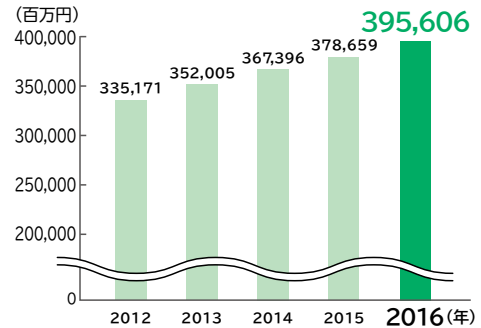
《 海外グループ会社の所在地 》

海外売上高前年比 **106%** 海外売上高構成比(連結) **25%**
(調整額含む)

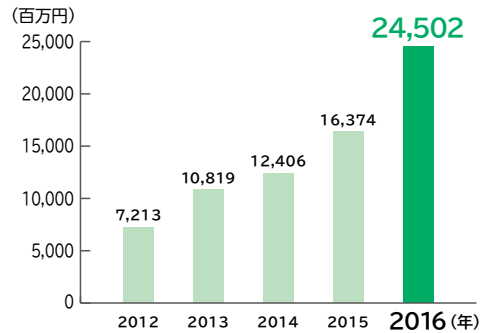


《 業績推移(連結) 》

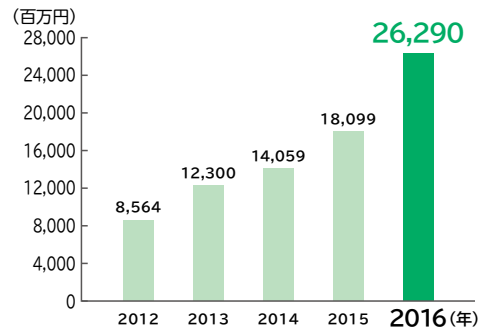
売上高



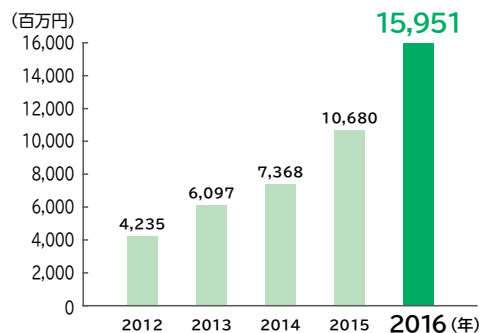
営業利益



経常利益



当期純利益



[IR資料室]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/>



ライオンについて

主な事業内容

【一般用消費財事業商品一覧】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/products/>



オーラルケア事業

主要製品分野 ハミガキ、ハブラシ、デンタルリンス、デンタル用品など

みなさまの健康な毎日を支える、一歩進んだオーラルケアを実現します。



ビューティケア事業

主要製品分野 ハンドソープ、ボディソープ、制汗剤、シャンプー、リンス、男性化粧品、育毛剤など

ヘアケア&スキンケアで、心身の健康と快適をお届けします。



ファブリックケア事業

主要製品分野 衣料用洗剤、柔軟仕上げ剤、漂白剤、衣類ケア剤など

いつも清潔な衣服を気持ちよく着ていただくために、安心して使える製品をお届けします。



リビングケア事業

主要製品分野 台所用洗剤、住居用洗剤、調理関連品など

みなさまの清潔で快適な食・住生活に役立つ製品を提供します。





薬品事業

主要製品分野 解熱鎮痛薬、止瀉薬、胃腸薬、目薬、ドリンク剤、殺虫剤など

高まるセルフメディケーションのニーズに豊富なブランドでお応えします。



ウェルネス・ダイレクト事業

主要製品分野 健康食品、ヘアケア製品など

お客様の様々な健康・美容ニーズに対応した通販専用製品をご提供いたします。



特販事業

主要製品分野 ギフト、ノベルティなど

お客様へ各種贈答(ギフト)商品や、お得意先様への特別注文品をご提供いたします。



ペット事業(ライオン商事)

主要製品分野 サニタリー用品、オーラルケア、ボディケア、ランドリーケア、空間ケアなど

いつも清潔に、ずっと健康に、そして快適に。
人とペットが求める幸せな暮らしを支援します。



トップメッセージ

「新結合」で
新しい価値を創造し、
事業を通じて社会の
お役に立ち続けます。

代表取締役 社長執行役員

濱 逸夫



ライオンは1891年の創業以来、時代とともに変化する社会課題に対し事業を通じて応え続けてきました。デジタル化やIoTに象徴される技術革新の劇的な進歩による人々の生活の変化、一方で経済成長のスピード鈍化、高齢化の進行など、アジアそして日本において、くらしや社会の環境は加速度を増して大きく変化しています。

ライオンは、このような社会変化の中で課題を的確にとらえ、事業やCSR活動を通じ、既存の価値観にとらわれず、モノとコトを組み合わせる「新結合」による新しい価値を創り出し、「人を想うところ」をもって、解決に向けた取り組みを進めてまいります。

「事業を通じて社会のお役に立つこと」という創業の精神は時代の変化とともに形を変えながら、DNAとして事業活動、そして従業員にしっかりと受け継がれています。

ライオンは、経営ビジョン「Vision2020」において、「くらしとこころの価値創造企業を目指す」、「環境対応先進企業を目指す」、「挑戦・創造・学習企業を目指す」を掲げ、「愛の精神の実践」の社是のもと、「健康」、「快適」、「環境

の事業領域において、人々の健康寿命を延ばすことや、資源の節約・再利用を進める循環型社会の形成にお役に立つことを目指しております。

お客様満足を最優先とする製品・サービスの提供に取り組むとともに、環境保全活動の推進やコーポレートガバナンス体制のさらなる充実をはかり、すべてのステークホルダーからの期待に応えられる信頼性の高い企業となるよう、企業価値の一層の向上に努めてまいります。

くらしとこころの 価値創造企業を目指して

2016年も「予防歯科」の啓発に力を入れました。セルフケア用のハミガキ、ハブラシ、デンタル用品などのオーラルケア新製品の導入や、公益財団法人「ライオン歯科衛生研究所」を通じたライフステージ別の口腔保健活動、行政との取り組みを通して、正しいセルフケア、プロフェッショナルケアの啓発を進め、「予防歯科」の認知や意識向上につなげました。



また、ウェルネス・ダイレクト事業（通販事業）も順調に業績推移し、機能性表示食品を通じた新しい価値創造を進めています。

海外については、積極的なマーケティング活動、各国における「予防歯科」や手洗いの啓発活動を進め、「システム」、「キレイキレイ」ブランドなどのパーソナルケア分野が大きく成長しました。

今後も製品開発や販売だけでなく、オーラルケアや手洗いの啓発活動を進め、日本をはじめアジアの人々の清潔・健康で快適な生活習慣に貢献するというライオングループとして共通の理念のもと、習慣づくりのお役に立ち続けたいと考えています。

環境対応先進企業を目指して

ライオンは「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然との共生」の実現を目指し、環境目標「Eco Vision 2020」を策定し、CO₂排出量や水使用量の削減など、2020年の目標達成に向けて推進しています。

CO₂排出量削減については、COP21での日本の目標より高い目標に取り組んでおり、2016年もさらなる削減を進めました。また、商品のライフサイクル視点で独自に設定した「ライオンエコ基準」を満たすエコ商品を拡大し、お客様のエコ生活応援を続けています。

水使用量削減については工場排水を再利用する技術開発を進め、2016年に千葉工場にて新たな「排水リサイクルシステム」が本格稼働し、水使用量の大幅削減に成功しました。

今後も、先進的な環境対応技術の開発とステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、サステナブル社会の実現に貢献してまいります。

挑戦・創造・学習 企業を目指して

自ら挑戦し新しい価値を生み出す人材を育成するために、目標管理制度を推進するとともに、マーケティング研修などの機能別人材育成研修、ライオンの未来を直接経営に提案する「Lion Challenge Cup-Innovation」、組織の学習能力向上を目的とした表彰制度「L-Compass Award」を継続して実施しました。

さらに2016年はライオンの仕事と介護・仕事と育児の両立支援施策を拡充しました。

ライオンの仕事と介護の両立支援については「ショートタイムフレックス制度」を導入、併せて介護休業、介護休暇



制度についても見直しを図り、従業員が安心して長期的に働ける体制を整えました。今後も内容拡充を進めていきます。

また、仕事と育児の両立支援については従来の育児休暇制度に加え、「復職前セミナー」の実施、「復職と育児の支援Webサイト」を設立し、出産・育児を経験した後も従業員が安心して復職し、長期的に活躍できる体制を整えました。

2016年3月に特例子会社「ライオンともに株式会社」を設立し、障がいを持つ方々の雇用を進めました。今後も、障がいの有無の区別なく、個人の能力を発揮し、活躍できる会社を目指していきたいと考えます。

私が全国各事業所で行なっている社長懇談会は2016年も継続し、現場の従業員とのミーティングの中で、経営ビジョンを繰り返し伝え、ビジョン実現に向けた具体策についての議論を続けています。

今後も、従業員一人ひとりが世の中の潮流を先取りし、挑戦によって新たな創造を生み、そこから学習するというサイクルを回すことで「Vision2020」の実現を目指してまいります。

CSR経営を目指して

社会から信頼される企業であり続けるためには、CSRが経営の中に組み込まれていることが必要です。

ライオンは社会的責任の国際規格「ISO26000」に示された社会からの要請を理解したうえで、経営課題とすり合わせ、CSRの重要課題を特定しています。現在、経営ビジョン「Vision2020」V-2期では、海外グループも含めたライオングループ全体で中期目標を設定し、グループとしてのCSRの取り組みを進めております。

ライオンは2009年に、持続可能な成長を実現する世界的な枠組みである「国連グローバル・コンパクト」への支持を表明しました。今後も継続的に支持するとともに、「健康」、「快適」そして「環境」を強く意識したCSR経営に努めてまいります。

社是・経営理念・ライオン企業行動憲章

社是

わが社は、「愛の精神の実践」を経営の基本とし、
人々の幸福と生活の向上に寄与する。

経営理念

- 1 われわれは、人の力、技術の力、マーケティングの力を結集して、日々の暮らしに役立つ優良製品を提供する。
- 2 われわれは、創業以来の伝統である「挑戦と創造の心」を大切に、事業の永続的発展に努める。
- 3 われわれは、企業を支えるすべての人々に深く感謝し、誠意と相互の信頼をもって共栄をはかる。

ライオン企業行動憲章

(2003年1月1日制定、2008年1月1日改訂)

(前文) 私たちライオン・グループは、単に公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体のみならず、広く社会にとって有用な存在であり続ける。次の10原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守し、公共の福祉に反しないよう社会的良識をもって、持続可能な社会の創造に向けて自主的に行動する。

1. 【**基本的使命**】 私たちは、日々の暮らしに役立つ優良で安全な製品・サービスを提供し、お客様(消費者及びユーザーの皆様)の満足と信頼を獲得する。
2. 【**社会規範の遵守**】 私たちは、関連法規を遵守し、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との関係においても、健全で正常な関係を維持する。
3. 【**情報開示**】 私たちは、社会に開かれた企業として、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを積極的に行い、企業経営全般にわたる情報を適時適切に開示する。
4. 【**環境対応**】 私たちは、経済発展と環境保全が両立する「持続可能な社会」を創造していくため、自主的、積極的に行動する。
5. 【**就業環境の整備**】 私たちは、就業者の多様性と人格・個性を尊重した公正な処遇を実践するとともに、就業者のゆとりと豊かさを実現するために安全で働きやすい環境を確保する。
6. 【**社会貢献**】 私たちは、社会の一員として、積極的に社会貢献活動を行う。
7. 【**反社会的勢力との対決**】 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体との対決姿勢を貫く。
8. 【**海外での貢献**】 私たちは、海外においても、国際ルールや関連する国の法律の遵守はもとより、現地の文化及び慣習を尊重し、誠意と相互の信頼をもって現地の発展に貢献する。
9. 【**企業倫理の徹底**】 経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、ライオン・グループ全体に周知徹底する。また、社内外の声を常時把握し、意思疎通を深め、実効ある社内体制整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。
10. 【**問題解決**】 本憲章に反する事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、その事実関係を明確にし原因の究明と再発の防止に努める。また、社会への迅速かつ確かな情報公開と説明責任を遂行し、社会にも十分理解される形で事態の解決を図り、権限と責任を明確にした上で、自らを含めて厳正な処分を行う。




コーポレートメッセージ

根底にある
想い

LIONは、120余年にわたり人々の暮らしと共に歩んでまいりました。
 そこで学んだことは、人の一生は、“今日”という一日一日を積み重ねたものであり、
 毎日を、前向きに、充実して生きることこそが、幸せの本質だということです。
 “今日”を大切にすることは、一生を大切にすることです。
 価値ある未来に向かって、めぐりくる“今日”という一日一日を、この瞬間を、
 いとおしみながら、ていねいに、前向きに生きていくこと、そんな一人ひとりの
 「今日を愛する。」に役立っていくことが、私たちLIONの使命であると決意し、
 この想いをコーポレートメッセージに込めました。
 そして、これを一言で表現したのが企業スローガン「今日を愛する。」です。

幸せは、名もない一日につまっています。
 どんなさりげない一日にも、心を澄ませば
 感じる幸せが、いっぱいつまっています。
 小鳥の声でめざめる幸せ。洗いたてのシャツに
 腕を通す幸せ。炊きたてのご飯を
 噛みしめる幸せ。雲ひとつない青空を
 仰ぎ見る幸せ。「行ってらっしゃい」と
 家族に送り出される幸せ。誕生日や、
 結婚記念日や、クリスマスも大切だけれど、
 人生の大半を占める、そんなみづらの
 一日一日がどれほど大切か。ライオンは、
 そのことを誰よりも知っています。
 なぜなら、そこにライオンがいるからです。
 そこに、ライオンの仕事の間があるからです。
 いつも人のそばにいて、めぐり来る
 すべての一日の、人の清潔、人の健康、
 人の快適、そして人の環境を守りつづけること。
 それこそが、私たちライオンの変わることのない
 使命であり、誇りでもある。そう考えています。
 幸せは、毎日生まれる。
 人のからだや暮らしが求める、
 希望に満ちた新しい未来を、日本ばかりでなく、
 広く世界にも届けられることを大きな
 よろこびとしたい、私たちライオンです。

今日を愛する。
LION



企業
スローガン

今日を愛する。

ライオンのCSR

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な事業慣行

消費者課題

コミュニティへの参画
および発展



ライオンのCSR

事業を通じて、健康で快適な
社会・環境に貢献します。

ライオンのCSRの原点は、「人のため、世のために役立つ仕事」という創業の精神にあります。社是・経営理念に基づいて確固たる経営の基盤を作り上げ、経営ビジョンのもと、CSR重要課題を組み込み事業活動を推進することで、社会の持続的な発展に貢献します。

企業・社会の持続的な発展

2020年 経営ビジョン V-3計画 (Vision2020)

目指す姿

- 暮らしとこころの価値創造企業を目指す
- 環境対応先進企業を目指す
- 挑戦・創造・学習企業を目指す

めぐり来るすべての一日の
人の清潔、人の健康、人の快適、
そして人の環境を守り続け、
価値ある未来をつくる、
暮らしとこころの価値創造企業

2017年 V-2計画

快適事業

健康事業

環境対応
事業

PDCAの推進

2014年 V-1計画

CSR重要課題 ⇒ p14~17参照

経営の基盤

ライオン企業行動憲章・行動指針



社是・経営理念

<http://www.lion.co.jp/ja/company/management.php>

社是・経営理念



ライオン企業行動憲章・行動指針

<http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/indicator.php>



ライオンの社会・環境貢献活動の全体像

一人ひとりの価値ある未来につながっている「今日」という日々のお役に立つため、ライオンは、事業を通じた社会・環境貢献活動を進めています。

経営ビジョン

一人ひとりの価値ある未来につながっている「今日」へのお役立ち

事業活動

社会・環境貢献活動

健康・快適分野

口腔保健啓発活動



衛生習慣啓発活動



関連情報 p50-51

環境分野

水資源保護活動



関連情報 p51

大事にしていること

- ・地域との共生
- ・従業員の参画

健康・快適分野

ハミガキ、ハブラシなどのオーラルケア商品やハンドソープなどの清潔衛生関連商品など、よりよい生活習慣づくりに役立つ商品の提供とともに、口腔保健啓発活動、衛生習慣啓発活動を行っています。

環境分野

環境に配慮したくらしの実現を目指し、商品の環境負荷を低減させるとともに、衣料用洗剤、ハミガキ、ハンドソープ、台所用洗剤など「洗うこと」を通じて水との関わりが深い商品が主力品であることから、積極的に水資源保護活動を行っています。

大事にしていること

当社が事業を継続するためには、事業所の所在地などゆかりのある地域との共生が必要であることから、地域の住民の方々や行政、市民団体などと連携をはかり、地域社会の課題解決に取り組んでいます。また、事業に関連した社会・環境貢献活動に従業員一人ひとりが参画する機会を増やすことで、高い社会・環境意識をベースに新しい価値を生み出す人材育成につなげます。



ライオングループの事業活動の歴史

口腔衛生事業

ニーズに対応した機能付加と
口腔衛生普及・啓発活動

創業期

(1896年～)

口腔衛生の普及/
社会貢献活動の原点



獅子印ライオン歯磨



袋の裏の慈善券
(社会貢献活動の原点)

成長期

(1913年～)

子どものための歯みがき
習慣の啓発活動を開始



商品の付録の絵本
(子どもへの口腔衛生活動の原点)



ライオン児童歯科院

大量生産期

(1960年代～1970年代)

市場を拡大し、世界に
通用する製品を開発



小田原工場竣工
(生産体制の増強)



ホワイト&ホワイト
(使いやすい容器、
ラミネートチューブの開発)

清潔衛生・環境対応事業

清潔衛生の啓発と地球環境対応

衛生観念の普及啓発

(1891年～1940年代)

洗剤で「洗う」ということの
普及啓発



標準家庭
洗濯法
(洗濯方法の
啓発)



ライボン
(日本初のアル
コール系合成
洗剤)



植物性ライオンせんたく石鹸
(日本初の植物性原料の石けん)

戦後日本の 衛生環境改善への貢献

(1950年代)

野菜を洗うための洗剤で
寄生虫の撲滅に貢献



ライボンF
(日本食品衛生協会
推奨第一号製品)

水環境問題への対応

(1960年代～1980年代)

合成洗剤の普及とともに発生した
河川の発泡や富栄養化に対応



ダッシュ



無りんトップ

石けんとハミガキから始まったライオンの事業は、創業以来、口腔衛生文化・清潔衛生文化の担い手として、商品の提供とともに、生活者への啓発活動や情報提供を推進し、よき習慣づくりを提案してきました。このことを強みとして、ライオングループは社会的課題として関心の高い「口腔衛生」「清潔衛生」「環境対応」の分野を主な事業領域として取り組みを進めてきました。

口腔衛生事業は、当社の主力事業です。当社は、その時代ごとに新しい機能を付加した製品を開発し、口腔衛生に関する正しい知識を提供することで、人々の生活習慣の改善に寄与してきました。

拡充期

(1970年代以降)

多様化する口腔の健康問題に、
より科学的な研究で対応



クリニカライオン
(むし歯予防)



デンターライオン
(歯槽膿漏予防)



デンターシステムシリーズ
(歯周病予防)

現在

口腔衛生から全身健康へ
「予防歯科」の推進

クリニカ
アドバンテージシリーズ
(「予防歯科」の推進)

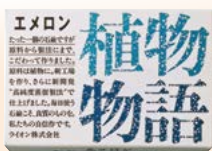


アジア地域での
口腔保健啓発活動

当社は、衣料用洗剤や石けんなど、さまざまな洗浄剤を提供し、世の中の衛生観念が低かった時代から現在まで、清潔衛生文化の発展に貢献してきました。また、製品開発においては水環境問題にはじまり、現在は地球環境問題にも取り組んでいます。

石油資源問題・
省資源化への対応
(1990年代)

植物原料の
製品を拡大



植物物語



スパーク

食中毒多発による
除菌ニーズの拡大への対応
(1990年代～2000年代)

薬用石けんの発売と子どもの
ための啓発活動を展開



手洗い啓発活動



キレイキレイ
薬用ハンドソープ



キレイキレイ
薬用泡ハンドソープ

現在

水資源問題・節水への対応



トップ スーパー-NANOX トップ HYGIA ルックおふろの 防カビくん煙剤 CHARMY Magica

アジアの清潔な暮らしに貢献



海外NANOX

海外キレイキレイ



ライオングループのCSR管理体制の構築

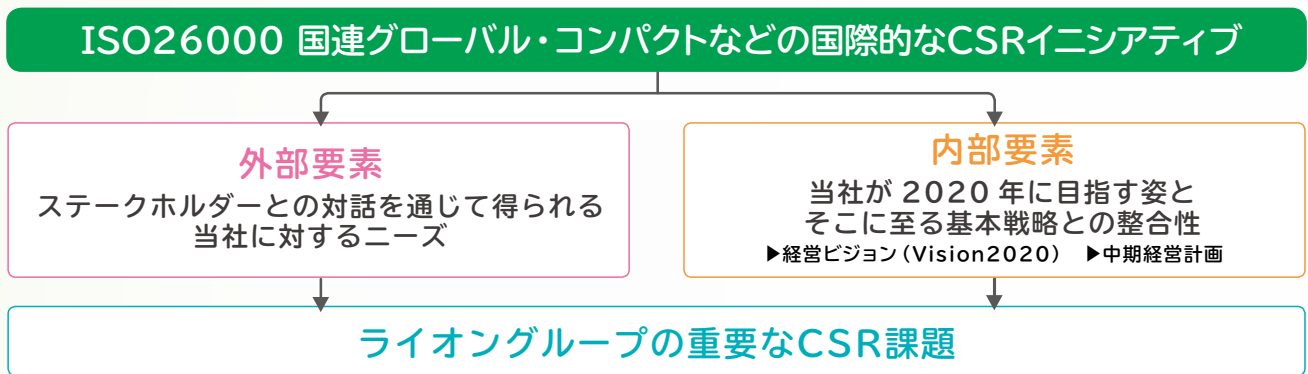
CSR目標の設定と進捗管理

当社は、2011年から国際的な社会的責任の手引きであるISO26000を活用し、第三者機関の意見を参考にしながら、国内グループにおいて対応状況の確認・評価を行ってきました。CSRに関する世界的な動向や当社グループの事業特性、潜在的なリスク・機会と影響度などを検討し、2012年にCSR重要課題を特定しました。

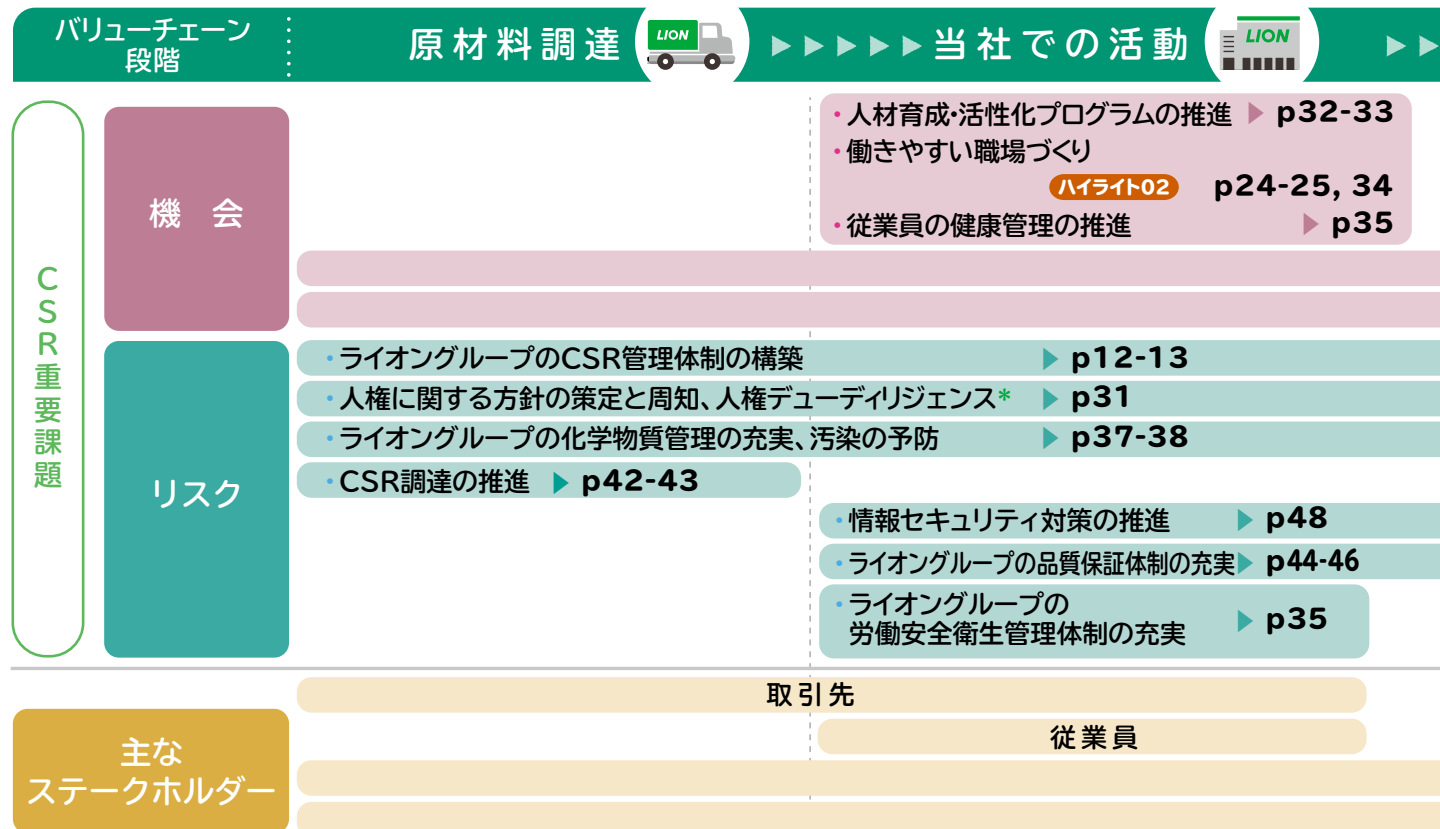
また、重要課題それぞれにおいて、経営計画に合わせた3か年の中期目標を設定しています。

さらに、当社が事業を展開している各国・地域が抱える、持続可能な開発目標(SDGs)に関する課題を整理した上で、当社が事業を通じて達成に貢献すべき目標を特定しています。

重要課題の特定プロセス



バリューチェーンと重要課題 (2016年の活動を関連ページに記載しています。)



*人権に関する悪影響を認識し、防止し、対処するために組織が実施すべきステップ。

2016年ハイライト 01

ライオングループの 国内外での 衛生習慣啓発活動



当社は、創業当初より、社会の清潔衛生文化の発展を目指して、商品の開発とよき習慣づくりの提案をしてきました。現在も、継続的に人々の清潔衛生意識の向上に寄与する商品提供および啓発活動を積極的に行っています。

そのひとつの事例が当社の『キレイキレイ』ハンドソープです。1996年の「O157」食中毒集団感染の多発が契機となり誕生したこの商品は、現在では日本に加えて、韓国、シンガポール、タイ、香港、中国で展開しています。各国において、商品の提供とともに手洗い啓発活動を積極的に行っています。

2016年ハイライト 02

仕事と介護・ 仕事と育児 両立支援への取り組み



当社は、持続可能な経営の実現のために、一人ひとりの従業員が安心して働くことができ、活躍できる会社を目指しています。その中でも特に、従業員の多様性（ダイバーシティ）および仕事と家庭の両立支援（ワーク・ライフ・バランス）を重視して取り組んでおり、積極的に仕事と介護・仕事と育児の両立支援に向けて取り組みを推進しています。

2016年ハイライト 03

千葉工場 排水リサイクル システムの本格稼働



当社は、ハミガキ・ハブラシ・ハンドソープ・衣料用洗剤などの商品を提供しており、創業以来「洗うこと」を通じて、常に水と深く関わってきました。そのため、生産工場における水使用量の削減、節水型商品の開発、雨水活用の啓発を行うなど、水資源保護活動に力を入れて取り組んできました。

2015年に、工場における水使用量の削減施策として、当社の千葉工場にて「排水リサイクルシステム」が完成、2016年より本格稼働しています。

消費者による使用



消費者による廃棄



・くらしに役立つ生活情報の
発信と啓発活動 ▶ p47

・持続可能な社会の発展に
貢献する商品・情報の提供 ▶ p48

・先進的な環境への取り組み **ハイライト03** p26-27, 36-41

・健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実 **ハイライト01** p18-23, 49-51

・リスクマネジメントの推進、コンプライアンスの浸透／内部統制 ▶ p28-30

お客様

株主・投資家

環境・社会



CSR重要課題に関する

中期経営計画 (V-2:2015~2017年) における目標と2016年実績

ライオンが特定したCSR重要課題において、2017年中期目標の達成に向けた活動を推進しました。国内においては、毎年実施している部所横断型の委員会での活動に加えて、従業員の多様性およびワーク・ライフ・バランスを推進する施策やe-ラーニングによる各種研修などを実施しました。海外においては、国や地域によって異なる法律・文化・習慣の違いを考慮しつつ、それぞれのグループ企業の状況をふまえて順次活動を進めました。

| 中核主題 | 目指す姿 | 重要課題 | 2017年中期目標 |
|---|------------------------------|-------------------------------|--|
| <p>組織統治</p> | <p>社会から信頼され続ける健全な経営体制の維持</p> | ライオングループのCSR管理体制の構築 | <p>国内 CSR方針としてのライオン企業行動憲章の浸透</p> <p>海外 CSRに関する方針の周知徹底</p> <p>国内 目標の進捗管理</p> <p>海外 目標の設定と進捗管理</p> |
| | | リスクマネジメントの推進 | <p>国内 多面的な想定に基づいた事業継続計画 (BCP) の継続運用</p> |
| | | コンプライアンスの浸透／内部統制 16 | <p>国内 コンプライアンス意識の啓発</p> <p>海外 内部統制システムの強化</p> |
| | | <p>人権</p> | <p>人権を尊重する体制の整備</p> |
| <p>人権デューデリジェンス*1 5 8 16</p> <p>国内 サプライヤーによるCSR活動のセルフチェックの推進とフィードバック</p> <p>国内 ホットラインの周知、相談・通報案件への対応</p> <p>海外 社内通報・相談窓口の設置と運用</p> | | | |

*1 人権に関連する悪影響を認識し、防止し、対処するために組織が実施すべきステップ。

持続可能な開発目標 (SDGs)

当社下表の重要課題の列に記載している番号は、ライオンが事業を通じてその達成に貢献したいと考えているSDGsの番号です。

これらの番号は、当社の事業戦略および事業展開国が抱える課題の大きさをふまえ特定[※]しました。

各SDGsの達成に向けたライオンとしての目標およびKPIは、ライオンの事業の方向性を勘案しつつ今後検討していきます。

※ IAEG-SDGs (SDGs 指標に関する機関間専門家グループ) が検討中の指標およびSDG Index & Dashboardsに掲載されている指標を参考にしました。



| 2016年実績 | CSR報告書2017 関連情報ページ | 当社WebページのURL |
|--|-----------------------|---|
| ●ライオン企業行動憲章に関するe-ラーニングの実施 (年1回実施) | p30 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/ |
| ●CSR方針のオフィスでの掲示 ●CSR方針が記載されたハンドブックを従業員に配布 | — | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/ |
| ●CSR報告書・Webによる進捗の公開 (年1回実施) | p14-17 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/lion_csr/promotion/vision.php |
| ●CSR報告書・Webによる進捗の公開 (年1回実施) | p14-17 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/lion_csr/promotion/vision.php |
| ●執行役員会でのBCPの確認と見直し実施 (年1回実施) | p29 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/ |
| ●コンプライアンス意識調査アンケートの実施 回答対象にパート社員も加え対象範囲を拡大 (年1回実施、2016年回答率98%) ●e-ラーニングによるコンプライアンス、セクハラ・パワハラ、インサイダー取引などに関する研修の実施 | p30 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/ |
| ●財務報告に係る内部統制の導入および評価実施 | — | http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/ar/2016/ |
| ●ライオン企業行動憲章に関するe-ラーニングの実施 (年1回実施) | p31 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/humanrights/duediligence/ |
| ●サプライヤーのCSR活動のセルフチェックと、サプライヤーへの評価結果のフィードバック実施 (年1回実施) | p42-43 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/procurement/ |
| ●コンプライアンス意識調査アンケートによる周知 (年1回実施、2016年周知率98%) ●すべての案件への対応と収拾 | p30 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/ |
| ●社内外通報窓口、社内相談窓口の設置と運用 ●コンプライアンス教育を通じて社内ホットラインを周知 | p30 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/ |

| 中核主題 | 目指す姿 | 重要課題 | 2017年中期目標 |
|---|-----------------------------------|--|--|
|  労働慣行 | 従業員のモラルとモチベーションの向上による意識変革 | 人材育成・活性化プログラムの推進 5 8 | 国内 目標管理制度の実施によるPDCA推進施策の浸透 グローバル人材の育成 国内 多様な人材の活躍推進プログラムの充実～女性のキャリア形成支援施策実施～ |
| | | 働きやすい職場づくり 5 8 16 | 国内 健康いきいき施策によるワーク・ライフ・バランスの推進 海外 経営と従業員との対話機会の充実 |
| | | 従業員の健康管理の推進 3 | 国内 従業員に健康でいきいきと働いてもらうための環境整備 |
| | | ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実 8 | 国内 「安全衛生防災マネジメントシステム」に基づく労働安全と設備安全の充実 |
| | | 先進的な環境への取り組み 6 7 11 12 13 14 15 | 国内 海外 「Eco Vision 2020」の推進と進捗管理 |
|  環境 | 「環境対応先進企業」としての持続可能な社会の発展への貢献 | 汚染の予防 6 7 11 12 13 14 15 | 国内 汚染予防対策の推進 |
| | | ライオングループの化学物質管理の充実 6 11 12 14 | 国内 化学物質管理体制の充実 |
| | | CSR調達の推進 5 6 7 8 11 12 13 14 15 16 | 国内 サプライヤーによるCSR活動のセルフチェックの推進とフィードバック 国内 「Eco Vision 2020」の推進と進捗管理 |
|  公正な事業慣行 | バリューチェーン全体でのCSR活動の推進 | 持続可能な社会の発展に貢献する商品・情報の提供 6 12 14 | 国内 商品を通じた生活者の環境啓発活動の推進 |
| | | 暮らしに役立つ生活情報の発信と啓発活動 12 | 国内 ライフスタイル・ライフステージに応じた健康で快適な生活に寄与する情報発信の拡充 |
| | | ライオングループの品質保証体制の充実 | 国内 品質保証管理体制の充実 海外 各国規制対応の強化とお客様対応の充実 |
| | | 情報セキュリティ対策の推進 | 国内 情報セキュリティ対策の推進 海外 情報セキュリティ管理体制の充実 |
|  消費者課題 | 安全で安心な商品づくりによるお客様満足の追求 | 健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実 3 6 | 国内 海外 口腔保健啓発活動の推進～予防歯科(セルフケアとプロフェッショナルケアの推奨)の推進、保健指導者向け、子どもへの教育・啓発など～ 国内 海外 清潔衛生啓発活動の推進～子どもの手洗い・うがい啓発活動の推進など～ |
| | | 安全で安心な商品づくりによるお客様満足の追求 | 国内 商品を通じた生活者の環境啓発活動の推進 |
| | | ライオングループの品質保証体制の充実 | 国内 品質保証管理体制の充実 海外 各国規制対応の強化とお客様対応の充実 |
|  コミュニティ参画および発展 | 社会や地域との共存共栄/健康・快適・環境分野での社会の発展への貢献 | 健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実 3 6 | 国内 海外 口腔保健啓発活動の推進～予防歯科(セルフケアとプロフェッショナルケアの推奨)の推進、保健指導者向け、子どもへの教育・啓発など～ 国内 海外 清潔衛生啓発活動の推進～子どもの手洗い・うがい啓発活動の推進など～ |
| | | 安全で安心な商品づくりによるお客様満足の追求 | 国内 商品を通じた生活者の環境啓発活動の推進 |

| 2016年実績 | CSR報告書2017 関連情報ページ | 当社WebページのURL |
|--|--------------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●目標達成へのPDCAを回す取り組みを強化するための目標管理制度と研修の推進 ●マーケティング適性人材の発掘 | p32 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/development/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●女性活躍推進法に基づき設定した行動目標の達成に向けた取り組み ●障がい者雇用促進のための特例子会社「ライオンとみに(株)」の設立 | p33 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/various/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●仕事と介護・仕事と育児の両立支援策の拡充 ●次世代法第5期行動計画の推進 | p24-25, 34 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●労使対話の定期的な実施 | p32 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/relations/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●各階層別研修において健康管理に関する研修の実施 ●定期健康診断の実施(年1回実施) ●e-ラーニングシステムによるオーラルヘルスケア情報提供の強化 ●定期健康診断において、口腔内の清潔度などが測定できる唾液検査システムの導入 | p35 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●安全衛生防災会議による安全活動のPDCA推進(年2回実施) | p35 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/prevention/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●環境目標「Eco Vision 2020」の2017年目標に向けた進捗管理の実施 ●千葉工場 排水リサイクルシステムの本格稼働 | p26-27, 36-41, 43 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecovision2020/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●法定および自主基準による排気・排水管理の徹底 ●業界団体、当社独自双方による河川水モニタリング | p37 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●化学物質情報管理体制の構築と運用 | p37-38 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●サプライヤーのCSR活動のセルフチェックと、サプライヤーへの評価結果のフィードバック実施(年1回実施) | p42-43 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/procurement/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●環境保全推進委員会による進捗管理(年2回実施) ●RSPO認証パーム油誘導体の継続購入 | p36-37, 43 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecovision2020/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/guide/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●エコ商品への環境ラベルの表示と情報公開 ●ハブラシリサイクルプログラムの推進 | p48 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/communication/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/2016-p24-25.pdf |
| <ul style="list-style-type: none"> ●「暮らしのマスター」による生活情報の創造・蓄積・発信 ●オーラルケアソリューションビジネスの推進(オーラルシス、オーラルコム) ●生活情報メディア「Lidea」による情報公開と、蓄積された情報を活用したコミュニケーションの実施 | p47 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/communication/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●CS/PL委員会による品質保証活動のPDCA推進(年2回実施) ●化学物質情報管理体制の構築と運用 ●e-ラーニングによる「品質保証の基礎」に関する研修の実施 ●広告管理体制の強化 | p28, 30,37- 38, 44-46 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/quality/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●お客様対応窓口やマーケティング部門などによるお客様対応の強化 ●各国法規制への対応力強化 | — | http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/opinion/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●e-ラーニングによる情報セキュリティ、ソーシャルメディアのリスク、情報管理体制に関する研修の実施 | p48 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●個人情報、機密情報の漏洩を防止するための各種対策の実施 | p48 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●アジア各国・地域にて「全国小学生歯みがき大会」の実施 ●事業所周辺地域での歯みがき啓発活動の実施 ●幼稚園・保育所などでの歯みがき啓発活動の実施 | p50 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/oral/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/overseas/ |
| <ul style="list-style-type: none"> ●アジア各国にて手洗い・うがい啓発活動の実施 ●事業所周辺地域での手洗い啓発活動の実施 ●幼稚園・保育所などでの手洗い啓発活動の実施 | p18-23, 51 | http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/washing/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/overseas/ |

2016年ハイライト 01

ライオングループの国内外での 衛生習慣啓発活動



社会の清潔衛生文化の発展を目指して

当社は、創業当初より、社会の清潔衛生文化の発展を目指して、商品の開発とよき習慣づくりを提案してきました。

例えば、1890年頃に販売していた『ライオンせんたく石鹸』は、社会に「衣類を石けんで洗う」という新しい習慣を提案しました。この時代は、人々は水洗いだけで洗濯をしていました。しかし、水洗いのみでは落としきれない汚れも多く、当社は新しい習慣を商品を通じて啓発しました。

また、衛生観念が低かった戦後の1950年頃、野菜に寄生虫の卵が付着していることが多く、それを食べることによる健康被害が拡大していました。ライオンは、この社会的な課題の解決

に貢献するため、野菜や果物に使用できる洗剤『ライポンF』を開発し、寄生虫の撲滅に寄与しました。

現在も、継続的に社会課題に対応した商品開発・よき生活習慣の啓発を通じて、社会の清潔衛生文化の発展に貢献しています。



植物性ライオンせんたく石鹸
(日本初の植物性原料の石けん)



ライポンF
(日本食品衛生協会
推奨第一号製品)

『キレイキレイ』の誕生

『キレイキレイ』ハンドソープは、1997年に誕生した当社の手洗い商品です。

開発の背景には、1996年に多発した病原性大腸菌「O157」による食中毒の集団感染という社会問題があります。子どもたちをウィルスや菌から守るためには「手洗いの習慣化」が社会的な使命となりました。

当社は、子どもたちに手洗いを習慣的に行ってもらうためには、まず「家族全体」に手洗いの習慣を広げる必要があると

考えました。ただし、厳しいしつけや強制では習慣はなかなか身に付かず、楽しく自発的に行ってもらうことが大切です。こうした思いから、毎日の手洗いを「キレイキレイする」という家族の楽しい習慣に変えるハンドソープ『キレイキレイ』が誕生しました。

現在『キレイキレイ』ブランドは、ハンドソープのほか、うがい薬や消毒液など、さまざまな清潔衛生関連の商品を展開しています。

『キレイキレイ』ブランド ラインナップ



ウェットシート



薬用液体ハンドソープ



泡ハンドソープ



キッチン泡
ハンドソープ



消毒液



うがい薬

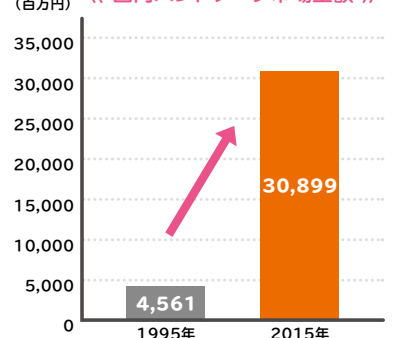
『キレイキレイ』ハンドソープは発売以降、継続的に人々の清潔衛生に対する意識の向上に貢献してきました。1995年(O157発生前)の、国内ハンドソープの市場金額*は約46億円でしたが、社会の清潔衛生意識の向上にともない、現在は約309億円の市場となっています。

家庭だけではなく、学校、職場、飲食店などにも広く普及しました。

2000年以降、『キレイキレイ』ハンドソープは、国内ハンドソープ市場No.1ブランドへと成長し、さらに日本にとどまらず、アジアのさまざまな国・地域でも展開しています。

* 化学工業統計年報 出荷金額

《 国内ハンドソープ市場金額 》



アジア各国・地域で手洗い習慣の定着を目指して

『キレイキレイ』ハンドソープは、2005年より海外展開をはじめ、今では日本に加え韓国、シンガポール、タイ、香港、中国で販売しています。それぞれの国で、商品の提供とともに、人々の清潔衛生意識の向上を目指し、手洗い啓発活動を行っています。

ライオングループは、特に小さい頃からの手洗い習慣の定着に重点を置き、子どもたちに向けた手洗い啓発活動を積極的にを行っています。今回のハイライトでは、各国が行っている啓発活動の一部を紹介します。

《 海外で展開する『キレイキレイ』ハンドソープ 》





タイでの衛生習慣啓発活動

生産工場に隣接する学校の生徒へ手洗い啓発を実施

タイライオンでは、シラチャ工場に隣接する学校の子どもたちへ、手洗い啓発を実施しています。

生徒たちは、まずブラックライトの下で光る、特殊なクリームを汚れの代わりに手に塗布します。次に自分の手の汚れを確認し、手洗いを行います。再度ブラックライトで自身の手の汚れを確認し、水洗いや簡単な手洗いだけでは手の汚れは落とし

きれないことを実感してもらったうえで、正しい手洗い方法について指導します。

実施した学校では、給食前に手を洗う習慣がない生徒が半数以上を占めていたため、今後も手洗い習慣の定着を目指し活動を継続します。



ブラックライトで手の汚れをチェック



手のどの部分が汚れていたか復習

タイライオン 担当者の声

【写真左】 Pornnapa Wimonrat Special Project Manager
【写真右】 Natthasinee Suksawang Product Manager

タイライオンでは、2013年から生産工場に隣接する学校の生徒に歯みがき指導を実施していますが、学校で給食前に手を洗わない生徒が多いということがわかり、2016年より手洗い指導をはじめました。手洗いは歯みがきと同じように簡単で効果的にできる病気の予防です。私たちは、より多くの生徒たちに、歯みがきと手洗いの習慣が身につくよう、今後もこの活動を実施していきます。



シンガポールでの衛生習慣啓発活動

「World Hand Hygiene Day」に合わせた手洗い啓発活動を実施

シンガポールライオンは、「World Hand Hygiene Day」*と連動し、『キレイキレイ』を通じた手洗い啓発イベントを保育所の子どもたち向けに実施しました。イベントでは、お絵かきなどさまざまな活動を通じて、手洗いの大切さを啓発しています。また、正しい手洗い方法を『キレイキレイ』ブランドアンバサダーが子どもたちに伝えました。

むやみに何度も手を洗うのではなく、正しいタイミングで手を洗い、悪いバイ菌(悪玉菌)を手から取り除き、よいバイ菌(常在菌)を残すことが大切であることを手洗いダンスやゲームなどを通じて子どもたちに伝えました。

*WHO(World Health Organization) が提唱し、毎年5月5日に行われる衛生習慣啓発イベント。



『キレイキレイ』ブランドアンバサダー(中央)と子どもたち

シンガポールライオン 担当者の声

Tan Yi Ling Product Manager

よき衛生習慣について学ぶために、子どもたちと保護者が積極的に活動に参加している姿を見るととても嬉しい気持ちになります。衛生習慣の定着に向けた活動を推進し、バイ菌から身を守り健康的な毎日に貢献できるよう、今後も努めていきます。





韓国での衛生習慣啓発活動

幼稚園での『Ai!Kekute (アイケクテ)』手洗い教室

CJライオン(韓国)では、子どもたちが自分自身の健康を守ることができるように、CJライオンが販売しているハンドソープ『Ai!Kekute』を使用して、正しい手洗い方法を指導しています。(Ai!Kekuteは韓国語で「あら！キレイ！」という意味です。)

衛生習慣の定着において、特に重要な時期は幼児期です。CJライオンでは、ソウルおよび首都圏の4-6歳の幼稚園児を対象に『Ai!Kekute』手洗い教室を開催しています。教室では、泡の形のキャラクターと司会者が子どもたちの興味を引き付け、積極的な参加を促しています。手洗いソングや体操を通じて正しい手洗いを教え、手を洗うことは面倒なことではなく楽しい行為であることを伝えています。

また、参加した子どもたち全員に「手洗いシートとシール」を配布し、各家庭で手洗いがきちんとできた後に保護者にシールを貼ってもらい、手洗い習慣が身についていることを手洗いシートを通じて幼稚園の先生に確認してもらっています。

2016年は160の幼稚園で『Ai!Kekute』手洗い教室を実施し、18,789名の幼稚園児が参加しました。



『Ai!Kekute』手洗い教室の様子

販売店と連携した手洗い・うがい教室

CJライオンは、韓国の販売店「HomePlus」と連携して、生活者の感染予防に向けた取り組みを行っています。

インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が流行する夏休みや冬休みの時期に、親子を対象とした手洗い・うがい教室を開催しています。

2016年は「HomePlus文化センター」にて手洗い・うがい教室を25回実施し、各回15-20組の親子に正しい手洗い方法を伝えました。合計で約1,000名の親子が参加しました。



手洗い・うがい教室

CJライオン 担当者の声

Minji Lee Brand Manager, Personal Category Team

韓国では、衛生や健康に関する関心が高まっています。『Ai!Kekute』の、「子どもの頃から手洗い習慣を身につけることが大切である」という信念のもと、社会貢献活動として、「幼稚園手洗い衛生教育プログラム」を実施しています。

プログラムでは、泡のキャラクターとレクリエーションの講師が直接幼稚園を訪れ、子どもたちに楽しい手洗いソングや手洗い体操を実施しています。楽しく参加できるプログラムとして大好評です。

『Ai!Kekute』は韓国ハンドソープNo.1ブランドであるという使命感を持って、これからも生活者の健康かつ快適生活をサポートできるようさまざまな啓発活動を推進します。





中国での衛生習慣啓発活動

上海の幼稚園での手洗い啓発実施

中国では青島ライオンが、2016年より上海の3-6歳の幼稚園児を対象とした手洗い啓発活動を支援しています。

上海の幼稚園児は、感染症予防のために、幼稚園に入る前に、必ず手を洗います。青島ライオンは、上海の幼稚園に『キレイキレイ』ハンドソープを提供しています。

また、青島ライオンは、各幼稚園が主体的に行う手洗い教室を支援し、実施した幼稚園の子どもたち全員に、手洗いのステップや、正しい手洗いのタイミングなどを記載した「キレイキレイ健康手帳」を配布しています。

2016年は104園の約3万名の子どもたちに配布しました。



幼稚園の入り口で手を洗う子どもたち



「キレイキレイ健康手帳」を持つ子どもたち

上海の大型公園で「移動手洗い所」設置

春や秋の行楽シーズンになると、上海の公園は人で賑わいますが、外で飲食をする際、手を洗う場所が多くありません。青島ライオンは、上海市内の大型公園内で、「移動手洗い所」を2016年の5月・10月・11月に設置しました。「移動手洗い所」

では、利用者に正しい手洗い方法を伝えるとともに、手洗いのステップや、正しい手洗いのタイミングなどが記載された「キレイキレイ健康手帳」を全員に配布しています。2016年は約3万名の方が「移動手洗い所」を利用しました。



「移動手洗い所」利用者の様子



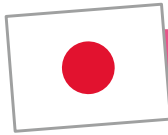
青島ライオン 担当者の声

Maggie Ma Brand Manager, Marketing Department

近年中国では、清潔衛生への関心が急激に高まっています。特に、若いお母さん世代の中では、手洗いはウィルスや細菌を除くために重要であり、かつ生活の中の上品な行動となっています。私たちは『キレイキレイ』の伝達者として、品質のよい商品を提供するとともに、皆様の健康な生活習慣に貢献することに喜びを感じています。

私たちとのコミュニケーションを通じて、より多くの皆様が『キレイキレイ』ファンになってくださり、清潔衛生習慣が身に付くのをとても嬉しく思います。





日本での衛生習慣啓発活動

従業員が主体的に行う手洗い啓発活動

当社は、全国各地の幼稚園・保育所で手洗い啓発活動を行っています。

従業員が主体となったこれらの活動では、「紙芝居」と「手洗体操」のプログラムを通じて、園児たちに手洗いの必要性和、正しい手洗いの方法を伝えています。

2050年までに、全ての社員がこの活動に参加する事を目標

にしています。

2016年は、全国で43カ所の施設を訪問し、6,687名の子どもたちへ手洗い啓発を実施しました。また、社員の参加人数は2012年からの累計で571名、参加率は22%となっています。

◆ 社員研修 ◆



若手社員の人事研修の一環として、手洗い啓発活動を行っています。毎年60-70名の社員がチームに分かれ全国の施設で、園児に手洗いの大切さを教えます。

◆ 震災復興支援 ◆



創業者のゆかりの地である、宮城県石巻市で、東日本大震災の復興支援の一環として、市内の幼稚園・保育所で手洗い啓発活動を推進しています。

◆ お取引先企業様との連携 ◆



お取引先企業様と連携して、手洗い啓発活動を実施しています。名古屋のスギヤマ薬品様をはじめ、各地のお取引先企業様との取り組みを推進しています。

◆ 行政との連携（事業所活動） ◆



『キレイキレイ』ハンドソープの生産工場であるライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所は、香川県坂出市に立地しています。2014年に坂出市、ライオン(株)、ライオンケミカル(株)の3者が連携して「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクトを立ち上げ、坂出市民に衛生習慣が浸透・定着するよう活動を推進しています。

お取引先との取組み（名古屋）担当者の声

ヘルス&ホームケア営業本部 東海北陸チェーン 保坂明紀

2015年よりスギヤマ薬品様と協働し、店舗近隣の幼稚園・保育所で手洗い啓発活動を実施しています。子どもたちに「手洗いの大切さ」と「正しい手洗いの方法」を伝えています。また、園児たちが手洗いを習慣化できるよう、店舗でも啓発を行っています。今後も地域に根ざしたスギヤマ薬品様と連携することで、地域の子どもたちを中心に「正しい手洗いの」習慣化を促進し、一人でも多くの方の清潔衛生に対する意識向上につなげます。



スギヤマ薬品様手洗い啓発活動のメンバー
(下段 右から2人目が担当者)

仕事と介護・仕事と育児 両立支援への取り組み



ライオンが目指す職場環境

当社は、持続可能な経営の実現のために、一人ひとりの従業員が安心して働き、活躍できる会社を目指しています。

その中でも特に従業員の多様性(ダイバーシティ)および仕事と家庭の両立支援(ワーク・ライフ・バランス)を重視して取り組んでおり、今回は仕事と介護・仕事と育児の両立支援への取り組みについて紹介します。

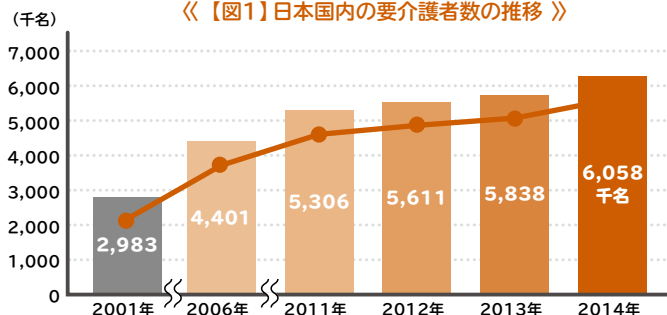
仕事と介護の両立支援について

大介護時代へ突入

日本の高齢化は著しいスピードで進んでおり、要介護者の人数も年々拡大しています。【図1】2025年には約3名に1名が高齢者(65歳以上)*となり、大介護時代へ突入するといわれています。当社においても、主に50歳前後の従業員が、今後介護に従事する可能性が高く、仕事と介護の両立を支援する制度推進および職場環境づくりは、企業の義務であると考えています。

*出典:総務省統計局(統計トピックスNo.72)

《【図1】日本国内の要介護者数の推移》



出典:厚生労働省 平成26年度 介護保険事業状況報告(年報)

仕事と介護 両立支援施策

当社は、法律に基づき、仕事と介護の両立支援制度を以前から推進してきました。大介護時代突入に向けて、従業員一人ひとりが安心して働くことができ、業務推進に貢献することができる

職場環境を目指し、2016年より本格的な制度の拡充に着手しました。下記の3ステップで新しい介護制度に向けて推進しました。

| 2016年1月 | 2016年7月~ | 2017年1月 |
|---|---|---|
| 第1ステップ 制度整備 | 第2ステップ 情報提供・風土醸成 | 第3ステップ さらなる制度整備 |
| <p>勤務形態 ショートタイムフレックス(SF)制度 短時間勤務とフレックスタイム勤務を組み合わせた新しい勤務形態を導入 (改定前:固定の短時間勤務制度)</p> <p>介護休業 SF制度と併せて365日まで1日単位で取得可能 (改定前:固定短時間勤務と併せて93日まで一括取得のみ)</p> <p>介護休暇 要介護者1名につき5日間半日単位で取得可能 (改定前:1日単位の取得)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●従業員向けに、仕事と介護の両立支援セミナー開催 ●仕事と介護の両立支援Webサイトを従業員向けに開設 ●「仕事と介護の両立支援 Handbook」を社内イントラネットに掲載 | <p>勤務形態 介護に必要な期間取得可能なショートタイムフレックス(SF)制度</p> <p>介護休業 SF制度と分割し、上限365日取得可能</p> |

制度を導入した2016年1月の第1ステップでは、今までの「短時間勤務制度」を「ショートタイムフレックス制度」に改定しました。「短時間勤務制度」では、一度決めると勤務時間が固定されていましたが、新しく導入した「ショートタイムフレックス制度」では、短時間勤務とフレックスタイム制度を組み合わせ、勤務時間を調整できるようになり、従業員がよりフレキシブルに働けるようになりました。

第3ステップ(2017年)でさらに制度整備を推進し、今までは介護休業と併せて上限365日であった、「ショートタイムフレックス制度」の取得上限日数を、上限を設けず従業員が「介護に必要な期間取得可能なショートタイムフレックス制度」に拡充しました。

今後も、従業員が仕事と介護を両立しながら、安心して働けるように介護支援制度を拡充していきます。

仕事と育児の両立支援について

出産後の勤務の継続

現在、日本政府により男女共同参画社会の実現に向けて、女性活躍推進に向けたさまざまな法律や施策が推進されています。しかし、出産を機に退職をする女性は、全体の33.9%にもものぼる、という調査もあり、仕事と育児の両立は依然社会課題となっています。【図2】

当社は、企業の持続的な成長のためには、女性従業員の活躍が不可欠であると考えており、出産・育児を経験した後も、長期的に活躍できるよう、さまざまな仕事と育児の両立支援策を推進しています。

今回は、当社が新しく取り組んでいる、仕事と育児の両立支援施策を紹介いたします。

仕事と育児 両立支援施策

▶ 復職前セミナー

育児休業中の従業員を対象に、職場復帰に対する不安を軽減し、前向きな気持ちで復職できるよう、年に2回「復職前セミナー」を開催しています。このセミナーでは、会社の近況についての説明、職場復帰をしている先輩社員との座談会、仕事と育児の両立について考えるグループワークなどを実施し、従業員が自信を持って職場復帰できるよう取り組んでいます。

▶ 「復職と育児の支援Webサイト」設立

2016年に、育児休業中の従業員のための「復職と育児の支援Webサイト」を立ち上げました。各自に合った育児の情報や、会社についての情報を発信しています。

利用者は「復職と育児の支援Webサイト」を通じて、

- ◎ 育児で不安や悩みが生じた際、個別に専門家に電話/メール相談
- ◎ 育児に関する疑問に対して充実したQ&A集で解決
- ◎ 会社から、会社の近況、復職に関する情報などを受信

など、育児や復職に役立つ機能を利用することができます。その他、休業中でもスキルの習得ができるよう、パワーポイントやExcelなど多岐にわたる自己啓発講座の履修や、WebサイトのSNS機能を通じた育児休業者同士の情報交換の場としても役立っています。

さまざまな仕事と育児の両立支援施策を推進して、働きやすさの充実や制度を拡充してきた結果、当社では100%の従業員が、出産後職場復帰をしています。今後も、活躍を促進する施策を拡充します。

育児休業取得者 従業員の声

営業開発部 富田 愛理

私は2016年4月より1年間、産後・育児休業を取得していました。毎日通っていた会社をこんなに長い間離れるのは初めてで、子どもが生まれるワクワク感と、この場所に戻ることができるのだろうかという不安が混じっていました。

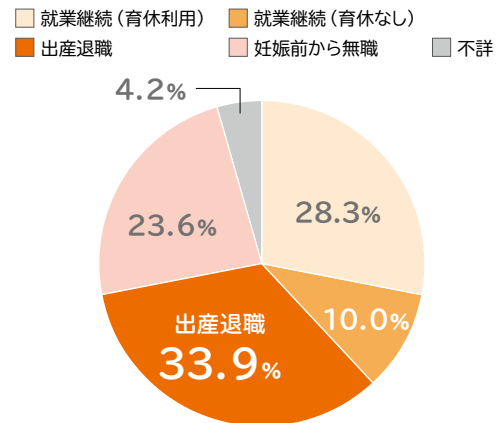
「復職と育児の支援Webサイト」にはとても助けられました。他の休業中の同僚、すでに復職をされている先輩ママと情報交換ができ、育児の悩みも共有できました。いざとなれば、24時間専門家に相談できる機能も大変心強かったです。また人事部より定期的に発信される会社の近況も、届くと嬉しい気分になり、久々に頭を仕事モードに切り替え集中して読んでいた自分がありました。

復職前セミナーには、子どもを連れて参加しました。多くの先輩ママが、小さな工夫を重ねながら活躍されている話を聞き、私もこの会社に戻って仕事も育児も両方やりたいという気持ちになりました。

復職後は忙しくなりますが、仕事も育児もこれまで以上に楽しめるよう、自分なりの小さな工夫をたくさん見つけていきたいと思えます。



《【図2】日本の出産退職率(2015年)》



出典:国立社会保障・人口問題研究所
第15回 出生動向基本調査

*データは第1子出生年が2010~2014年の妻の就業変化



復職前セミナーの様子



「復職と育児の支援Webサイト」の
育児Q&Aのページ

[ワーク・ライフ・バランスの推進]

URL http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/

千葉工場 排水リサイクルシステムの本格稼働





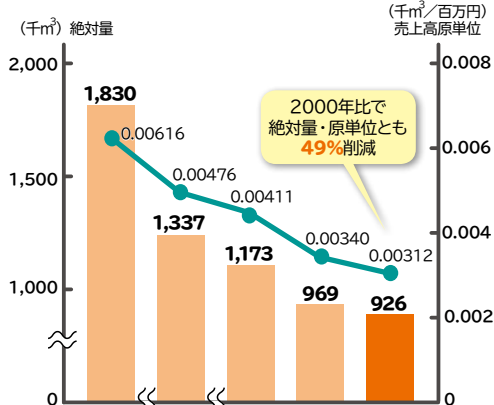




ライオンと水資源

当社は、ハミガキ・ハブラシ・ハンドソープ・衣料用洗剤などの商品を提供しており、創業以来「洗うこと」を通じて、常に水と深く関わってきました。そのため、節水型商品の開発、生産工場

における水使用量の削減、雨水活用の啓発を行うなど、水資源保護活動に力を入れて取り組んできました。

ライオンの水資源保護の活動

| 1. 製品開発 水資源に配慮した製品開発 | 2. 生産 工場における水使用量の削減 | 3. 社会活動 社内外に水の大切さを啓発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------------|-----------|------------------|------|-------|---------|------|-------|---------|------|-------|---------|------|-----|---------|------|-----|---------|--|
| <p>当社の節水型製品の一例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>トックスーパー-NANOX すすぎ一回</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>CHARMY Magica 油汚れを「サラサラ落とす」</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ルックおふろの防カビくん煙剤 カビ取りしなくても お風呂のキレイをキープ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>おふろのルック 泡切れがよく すばやくすすげる</p> </div> </div> | <p>国内グループ工場の水使用量の推移</p> <p>■ 絶対量 ● 売上高原単位</p>  <table border="1"> <caption>国内グループ工場の水使用量の推移 (2000-2016)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>絶対量 (千m³)</th> <th>売上高原単位 (千m³/百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2000</td> <td>1,830</td> <td>0.00616</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>1,337</td> <td>0.00476</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>1,173</td> <td>0.00411</td> </tr> <tr> <td>2015</td> <td>969</td> <td>0.00340</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>926</td> <td>0.00312</td> </tr> </tbody> </table> <p>2000年比で絶対量・原単位とも49%削減</p> | 年 | 絶対量 (千m³) | 売上高原単位 (千m³/百万円) | 2000 | 1,830 | 0.00616 | 2010 | 1,337 | 0.00476 | 2014 | 1,173 | 0.00411 | 2015 | 969 | 0.00340 | 2016 | 926 | 0.00312 | <p>雨水活用の啓発 雨活アイデアコンテスト</p>  <p>従業員による森林整備活動 ライオン山梨の森</p>  <p>関連情報 p51</p> |
| 年 | 絶対量 (千m³) | 売上高原単位 (千m³/百万円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2000 | 1,830 | 0.00616 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2010 | 1,337 | 0.00476 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2014 | 1,173 | 0.00411 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2015 | 969 | 0.00340 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2016 | 926 | 0.00312 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>

工場における水使用量の削減 ～千葉工場～

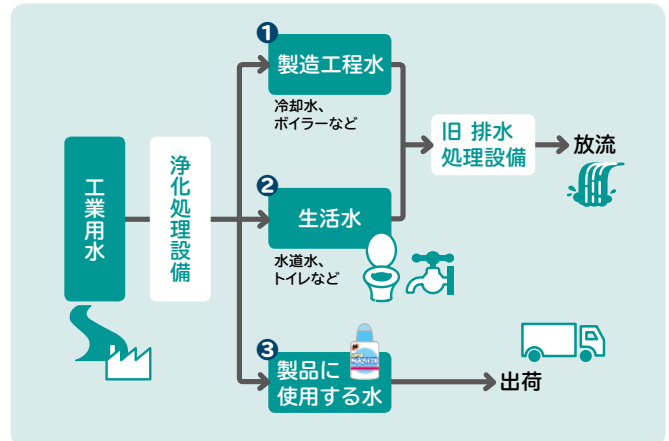
千葉工場は、水環境に配慮した「無リン洗剤専用工場」として1982年に竣工しました。当社で最も水を使用する生産工場であることから、「水環境保全先進工場」を目指して、積極的に水資源保護を推進してきました。

千葉工場で使用するすべての水は「工業用水」(河川水由来)を使用しています。この工業用水を自社で、用途別に①製造工程で使用する水②生活で使用する水③製品に使用する水に処理をして使用しています。

従来、製造工程水や生活水由来の排水は、「排水処理設備」で汚れを取り除き、金魚やめだかが住める程きれいに処理してから、自然に戻していました。

そこで、製造工程から発生する排水を回収・処理し、再び利用できないか考え、排水リサイクルシステムを導入しました。

《【図1】従来の排水処理設備》



▶ 排水リサイクルシステムの本格稼働

2015年12月に、千葉工場にて、水使用量の削減に繋がる新たな排水リサイクルシステムが完成し、2016年より本格的に稼働しました。

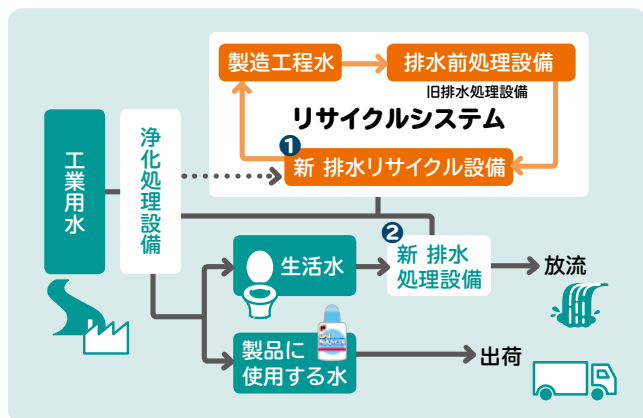
最大の特徴は、「新 排水リサイクル設備」(〔図2〕①)の導入です。これにより、今まで自然に戻っていた製造工程で発生する排水を放流せず、リサイクルするようにしました。

また、「新 排水処理設備」(〔図2〕②)を導入し、生活排水や

浄化処理設備の排水を、今まで以上に浄化することが可能となり、海の富栄養化の原因である窒素をさらに取り除くことができるようになりました。

新しい排水リサイクルシステム導入前の2013年と比較し、2016年は、千葉工場での水使用量を122千m³/年削減することができました。

《〔図2〕新しい排水リサイクルシステム》



新排水リサイクル設備

(公社)日本水環境学会 技術奨励賞を受賞

水環境保全に関する国内最大の学会である(公社)日本水環境学会において、千葉工場の排水リサイクルシステムの開発が評価され、技術奨励賞を2017年6月に受賞しました。この賞は、社会貢献の側面から、水環境技術に関して顕著な功績をなした個人または団体へ贈られます。

[(公社)日本水環境学会 技術奨励賞] URL <https://www.jswe.or.jp/awards/gijutsu/index.html>

千葉工場のその他の水資源保護活動

▶ ビオトープの整備

自然本来の水環境と生物多様性を保全する活動として、2011年に千葉工場の敷地内にて、従業員が手作りでビオトープ(通称「レオ・トープ」)を整備しました。定期的に整備をし、稲作やホタルが生息できる環境づくりを通じて、従業員の環境意識向上と地域との環境コミュニケーションの場として役立てています。



レオ・トープ

▶ 雨水の活用

工場内に雨水を貯めるタンクを設置し、雨水を鯉の池などに使用しています。水使用量の削減に貢献するとともに、工場見学者に水の大切さを啓発しています。

排水リサイクル設備導入をはじめとする、千葉工場の継続的な環境保全活動が社外からも評価され、2017年5月に(一社)日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア(RC) 優秀賞を受賞しました。

排水リサイクル設備 従業員の声

千葉工場 生産技術グループ 三富 龍介

私は、この計画で設備の設計、導入を担当しました。

どうすれば、製造工程から発生する排水を可能な限り回収・処理し、再び製造工程で使用できるようになるか。工場、研究、本社スタッフや水処理メーカーと共に知恵を出し合い、このシステムを完成させました。現在、設備は安定して稼働しています。

これからも少ない水使用量で多くの製品を作り、水資源保護活動と安定生産の両立をはかります。



三富 龍介



排水リサイクル設備現場運転者



目指す姿

社会から信頼される 健全な経営体制の維持

基本的な考え方

当社は、経営の透明性を高め、監督機能と意思決定の迅速化をはかり、コンプライアンスを確保することを、コーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置づけて

おり、コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進することにより、企業価値の向上を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制

経営の監督・監視機能を充実させる取り組み

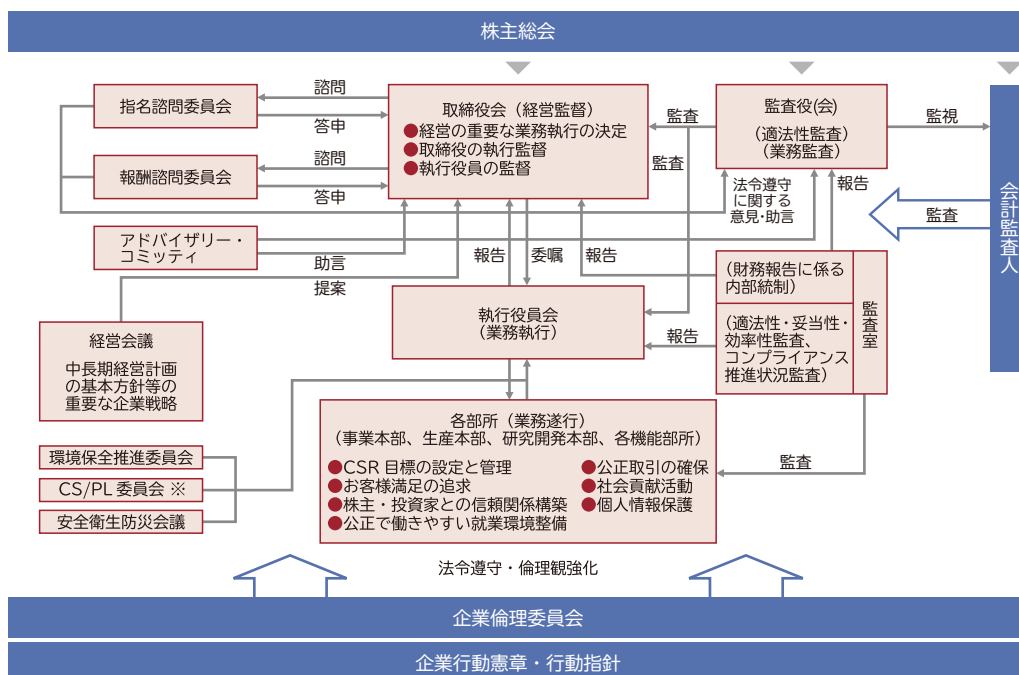
当社は、監査役制度のもとで経営の監督を行っていますが、2004年3月より執行役員制を導入し、それまで取締役会が担ってきた機能を区分し、取締役会は「経営の意思決定および監督機能」を担い、執行役員会が「業務執行機能」を担うこととしました。

取締役会については、その活性化および機動性の向上をはかるため、取締役員数を削減しています（執行役員制導入前19名。現在9名）。また、経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの一層の充実をはかるため、独立役員

としての要件も満たす社外役員5名（社外取締役3名および社外監査役2名）を中心とした指名諮問委員会および報酬諮問委員会を設置するとともに、代表取締役社長と社外役員全員との定期的（原則として月1回）な情報交換も実施し経営の監督・監視機能の充実に努めています。

さらに、社外有識者の評価・意見を経営に反映させるための「経営評価委員会」（現アドバイザー・コミッティ）を2003年10月より設置しています。

■コーポレート・ガバナンス体制（2017年4月1日現在）



[コーポレート・ガバナンスに関する報告書]

URL http://www.lion.co.jp/ja/company/about/pdf/abo_gov.pdf

*CS / PL 委員会

CS: Customer Satisfaction (お客様満足)

PL: Product Liability (製造物責任)

品質保証活動を推進するための部所横断型の委員会。

リスクマネジメントの推進

事業を行う上でのさまざまなリスクに対応する仕組みの整備

当社では、お客様に対して、安心・安全な製品を継続して提供するために、リスク統括担当役員を任命し、当社グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理しています。環境、品質責任、事故・災害に関するリスクについては、各種会議体を通じて対応策を検討し、必要に応じて執行役員会で審議し、リスク管理を行っています。各工場ではISO14001の認証を受け、品質管理および環境保全に積極的に取り組んでいます。天災・事故発生などによる物理的緊急事態が発生した場合は、緊急事態処理システムに従い、発生事実を社長、監査役などへ報告するとともに、対応状況について執行役員会・取締役会へ報告しています。

また、事業を行っていく上で起こりうるさまざまなリスクのうち、特に投資者の判断に重要な影響をおよぼす可能性のある主な事項として、以下の5点を挙げ、有価証券報告書に明示して公開しています。

1. 製品の品質評価
2. 原材料価格の変動
3. 為替レートの変動
4. 重大な訴訟等
5. 地震等自然災害

■ 事業継続計画 (BCP)

当社は、大地震や感染症の蔓延(パンデミック)などが発生した場合でも、お客様に商品をお届けできるよう、被害の最小化と業務の継続をはかるための体制づくりを推進しています。

地震災害が発生した場合は、「地震災害対策マニュアル」、新型インフルエンザ等感染症によるパンデミックの発生が予見される場合には「新型インフルエンザ等感染症対策マニュアル」にしたがって対策本部を設置し、対応に当たります。災害の規模、被災状況によってBCP発動の是非を判断しますが、BCPが発動された場合は当社事業のうち、一般消費財の供給を最優先とした体制をとることとしています。経営に重大な影響を与えるリスクについては、対応状況を取りまとめ、毎年執行役員会に報告しています。

内部統制システムの整備

業務の適正を監査する仕組みの強化

当社は、会社法および会社法施行規則に基づき、当社グループ各社の業務の適正を確保するための体制を整備しています。

また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の評価および監査制度」については、全社レベル・業務プロセスレベルの統制の整備を行っています。

内部統制の有効性に関する評価は監査室が行い、結果を取締役社長および監査役に報告するとともに、取締役会でも定期的に報告しています。

2016年は評価の結果、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断し、2017年3月に有価証券報告書とともに内部統制報告書を内閣総理大臣に提出しました。

■ 内部監査

社長直轄の監査室が、健全な業務活動基盤の確立に向けて、各部署の業務推進状況について、適法性、妥当性、効率性、リスクマネジメントの視点から監査を行っています。

監査結果ならびに改善状況については、社長への報告と、執行役員会にて年2回、監査結果を総括して報告することで、監査業務のPDCA管理と、業務執行部門との情報の共有化をはかっています。

[有価証券報告書]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/yuhou/>

国連グローバル・コンパクト

当社が2009年から参加する国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、そして「腐敗の防止」の4つの領域に関わる10の原則の実現を目指す企業・団体の自発的な取り組みです。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)にも加入し、参加企業のCSR活動推進を目的とした分科会活動にも定期的に参加しています。

[国連グローバル・コンパクト] URL <https://www.unglobalcompact.org/>

[グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン] URL <http://ungcjin.org/>



コンプライアンスの浸透

法令遵守・倫理観強化への取り組み

当社グループでは、企業倫理担当役員を委員長とする企業倫理委員会のもとで、コンプライアンス意識の啓発を積極的に行っています。コンプライアンスの基盤となる「ライオン企業行動憲章*1」は、当社グループの全従業員に冊子で配付し、ホームページ上で社外にも公開しています。また、毎年のプログラムに沿って、e-ラーニングなどの教育を定期的実施しています。

2016年に実施したe-ラーニングでは、「ライオン企業行動憲章」の閲読と同意に加えて、品質保証の基礎、就労管理の基礎、ソーシャルメディアのリスク、情報セキュリティ、情報管理体制、職場のハラスメント、インサイダー取引の基礎知識について学習しました。

コンプライアンス意識調査アンケート*2

当社は、グループ全従業員を対象に毎年、「コンプライアンス意識調査アンケート」を実施しており、今回で13回目となります。アンケート結果を経営層に報告するとともに各職場へフィードバックし、コンプライアンス体制の維持・強化につなげています。

2016年よりアンケートの回答対象範囲にパート社員も加え、対象範囲を拡大しました。アンケートを通じて、職場環境の問題などの意見が寄せられました。(対象4,539名のうち約98%の従業員が回答)

ホットラインの周知

当社は、社内・社外の通報制度「AL (オールライオン) 心のホットライン」を設置し、派遣社員を含む全従業員への周知をはかっています。

2016年は16件の相談・通報がありましたが、重大な不正行為と判断される事案はなく、すべての事案に適切に対応し、收拾しました。

[AL 心のホットライン]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/index.php>

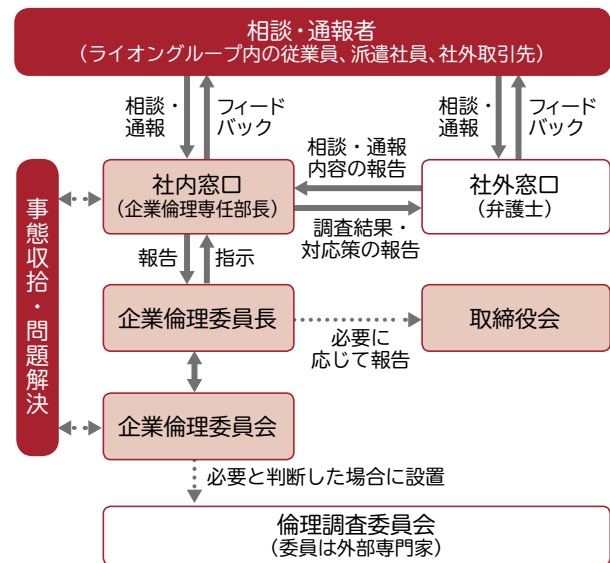
CJライオン(韓国)におけるホットラインの取り組み

CJライオン(韓国)では、従業員(パート社員・契約社員含む)および外部ステークホルダーを対象としたホットラインを2004年より運用しています。相談内容は倫理遵守責任者と担当者および社外顧問弁護士に報告され、相談者は実名または匿名で通報が可能です。また、相談内容の秘密の厳守についても保証されます。ホットラインの周知については、従業員向けのコンプライアンス教育を行う際に告知し、CJライオンのホームページやイントラネットに掲示しています。

[Ethics Management Hot Line]

URL <http://www.cjlion.co.kr/en/corporate/ethicsManagement.do>

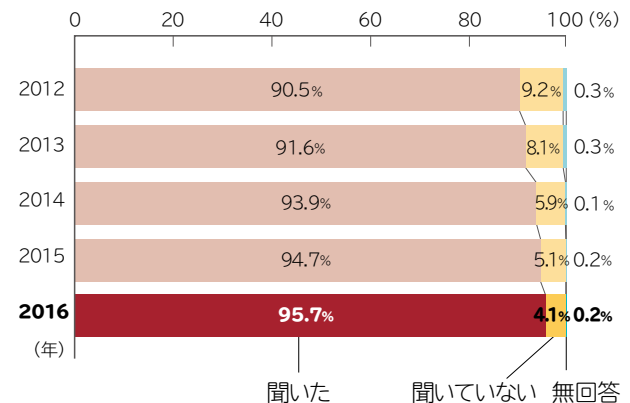
「AL心のホットライン」の仕組み



「AL心のホットライン」への相談・通報内容(2016年)

| | |
|-------------|----|
| ハラスメント的行為 | 3件 |
| 人事・労務管理上の問題 | 9件 |
| その他 | 4件 |

アンケート結果のフィードバックを聞いた従業員の割合



Webサイトのご紹介

CSRマネジメント

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/>



*1 ライオン企業行動憲章の10原則

1. 基本的使命
2. 社会規範の遵守
3. 情報開示
4. 環境対応
5. 就業環境の整備
6. 社会貢献
7. 反社会的勢力との対決
8. 海外での貢献
9. 企業倫理の徹底
10. 問題解決

*2 コンプライアンス意識調査アンケート

ライオン企業行動憲章の遵守状況、前年のコンプライアンス意識調査結果に対するフィードバックの有無、ホットラインの認知などを無記名で回答するアンケート。



目指す姿

人権を尊重する体制の整備

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」において、「人権の尊重」、「全ての法律、国際ルール及びその精神の遵守」を定め、「行動指針」においては、児童労働や強制労働を認めないこと、機会均等な雇用と就業者に対する

公正な処遇を行うことや、購入先における人権についても示しています。また、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明しています。

人権に関する方針の周知

ライオン企業行動憲章・行動指針の浸透と定着

当社は「ライオン企業行動憲章」およびそれに基づく「行動指針」において、人権尊重に関する方針を示しています。役員、グループ会社社員、従業員、派遣社員に対する企業行動憲章の周知については、年1回、e-ラーニング、

あるいは文書による企業行動憲章の閲読と同意を行っています。また、企業行動憲章の浸透・定着状況を確認するアンケートも年1回行っています。

人権デューディリジェンス

バリューチェーンに沿った人権を尊重する仕組みの充実

当社は、バリューチェーンに沿って当社の活動の人権に対する影響を把握し、報告、是正、フォローする仕組みの充実をはかっています。

Webサイトのご紹介

人権の尊重

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/humanrights/duediligence/>



■当社の人権に対する取り組みの全体像

| バリューチェーン段階 | 原材料調達 | 当社での活動 | 消費者による使用 |
|------------|---|--|--|
| 主な対象と取り組み | 取引先 <ul style="list-style-type: none"> ● 調達基本方針、ライオングループサプライヤーCSRガイドラインに基づく取り組み → 関連情報 p42-43 ● ホットラインの設置 → 関連情報 p30 パーム油農園 <ul style="list-style-type: none"> ● RSPOの活動に参画 ● 認証パーム油誘導体の継続購入 → 関連情報 p43 | 従業員 <ul style="list-style-type: none"> ● 「ハラスメント防止宣言」を従業員に周知徹底 ● 採用、評価、処遇などの各時点での確認 ● 人権教育の実施 ● 宗教、人種などへの差別を抑制する環境づくり ● ホットラインの設置 → 関連情報 p30 ヒト試験の被験者 <ul style="list-style-type: none"> ● ヘルシンキ宣言の尊重 ● 被験者の安全と倫理的配慮を最優先するための「ヒト試験実施規程」の運用 当社工場周辺の居住者 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境方針のもとでの環境管理による汚染の予防や法規制の遵守 → 関連情報 p36-41 ● 新工場の建設時における環境アセスメントの実施 | お客様 <ul style="list-style-type: none"> ● 「製品マネジメントシステム」による、安全と機能の徹底的な追求 → 関連情報 p44-46 ● 「表示作成マニュアル」による、高齢者や子どもなどの弱者への配慮 |



目指す姿

従業員のモラルとモチベーションの向上による意識変革

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」において、「就業者の多様性と人格・個性を尊重した公正な処遇の実践」と「就業者のゆとりと豊かさを実現するための安全で働きやすい環境の確保」を定めています。また、「行動指針」においては、「ワーク・ライフ・バランスの推進

による柔軟な働き方ができるような労働環境の整備」や「優れた専門技術や知識の体得に努め、かつ高い目標に挑戦する就業者に対する最大限の手助け」、「就業者や就業者の代表との誠実な対話と協議」を示しています。

良好な労使関係のために

積極的なコミュニケーションを基盤とした労使間の理解と信頼の構築

当社は、相互の理解と信頼に基づく健全な労使関係の推進と、会社ならびに労働組合の社会的使命と責任の自覚のもとで、企業行動憲章を遵守し、相協力して社業の発展と組合員の労働条件の維持向上をはかることを目的として、労働組合と労働協約を締結しています。

その中で、会社は組合員の正当な組合活動の自由を認め、これを理由として不利益な取り扱いをしないことや、会社と組合は、対等な立場で協議するために、労使協議会を設け、

定期開催することを定めています。

当社ではユニオン・ショップ制^{*1}を採用し、労使協議会での経営状況の報告や職場環境についての意見交換など労使で積極的に活動し、労使関係の維持・向上に努めています。また、海外グループ会社においても、労働組合・労使協議会などを通じて、よりよい職場環境の実現に向けて従業員と経営のコミュニケーションを積極的にはかり、健全な労使関係の構築・維持に努めています。

人材育成

目標管理制度によるPDCA推進とさまざまな研修・能力開発機会の提供

機能別研修体系の整備

機能別研修においては、各職種における専門性強化に向けて施策を用意しています。マーケティング部門において、「マーケティング学習プログラム」を2014年より継続的に実施しています。これまで各部門で活躍している人材からマーケティング部門の要員を配置してきましたが、さらなる強化に向けて、努力と学習を継続する熱意のある人材を発掘するプログラムを設計し運用しています。本プログラムでは、マーケティングの実務的な理論習得や消費者インサイト、競争戦略をふまえた企画設計の体系的な学習機会を提供するとともに、資質判定を行うことにより将来のマーケティング人材の育成を行っています。

ライオンチャレンジカップイノベーション

2016年は、社員自らが、経営陣に「ライオンにとって夢のある提案」を伝えることができる「第2回 LION CHALLENGE CUP-Innovation」を開催しました。この大会では、社員の自己啓発意識を高揚し、社会に貢献していく事業領域を突き詰め、全社の未来の大きな成長につなげる「革新的な提案」を導き出すことを目的としています。予選を突破したテーマは本選にて経営陣に提案内容をプレゼンテーションします。

2016年は、34件のエントリーのうち、ゴールド賞1チーム、シルバー賞1チーム、ブロンズ賞2チーム、審査員特別賞1チームが選出されました。ゴールド賞、シルバー賞を受賞したテーマにおいては、実現可能性について関連部所にて検討しています。

*1 ユニオン・ショップ制

労働者が会社に雇用された際に、特定の労働組合の組合員になることが条件である労働協約。

多様な人材の活用

ビジネス環境の変化に迅速に対応する人材の活用

当社では、ビジネス環境の変化に迅速に対応する必要性から、「ダイバーシティ（多様な人材の活躍推進）」に取り組んでいます。

当社は、さまざまな人材が、より一層活躍するための人事施策を社員参加により企画・立案してきました。現在は人事部門内に担当チームを設置しダイバーシティ推進に向けたさまざまな取り組みを行っています。

■ 社内の職を知る機会の提供（キャリアフォーラム）

若手のキャリア開発を支援する目的で、将来のキャリア形成を描くヒントとなるよう、他部所の業務を知る機会を作り、現職担当者による部所、業務内容の説明を行っています。2012年にスタートし、これまで財務・法務・マーケティング・広報・CSR・営業・国際部門などを取り上げました。

5回目の2016年は新規ビジネスおよび生産事業をテーマに、過去のキャリアの活かし方、将来のためのアドバイスなどを紹介しました。



キャリアフォーラムの様子

■ 地域限定社員制度

臨時雇用者などの中で貢献度が高い優秀な人材の確保や正社員の多様な働き方の実現を目指し、2013年より地域限定社員制度を導入しています。全国を7ブロックに分けて勤務地をブロック内に留め、処遇や福利厚生は正社員に準じた内容になっています。2015年は9名、2016年は9名、2017年は5名が臨時雇用者などから登用されました。

■ 女性活躍推進の取り組み

当社は企業価値創造において、女性の活躍は不可欠であると認識しており、積極的に女性活躍推進施策に取り組んでいます。

2016年に国会で成立した、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律「女性活躍推進法」に基づき、当社においても、長期的に女性社員が活躍できるよう、育児関連制度の拡充や仕事と育児の両立支援策の実施などを行っています。その結果、ライオン単体の平均勤続年数は、男性が19年に対して、女性は17年7か月と長期的に活躍しています。また、今後の取り組みにより2020年には国内での女性マネジメント層*比率15%以上を目指しています。

女性活躍推進法に基づく当社の行動計画と女性の活躍推進宣言は、厚生労働省委託事業「ポジティブ・アクション（女性活躍推進）情報ポータルサイト」にて掲載されています。

【女性の活躍推進宣言】

URL http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail/?id=1664

【当社の女性活躍推進法に基づく行動計画】

URL http://www.positiveaction.jp/pa/search/detail.php?company_id=1620

*当社では、管理的地位を担う人材をマネジメント層としており、役職的には係長以上に相当。

■ 障がい者の積極的な活用

障がいの有無の区別なく、個人の能力を発揮するため、働く環境の改善や職場全体でサポートする風土を醸成し、積極的な活用を進めています。

2016年3月に特例子会社「ライオンともに(株)」を設立し、障がい者の雇用と活躍を推進しています。

「ライオンともに(株)」には12名の従業員および4名の指導員がおり、社内の連絡便の管理、ライオン(株)全社員の名刺印刷業務などを行っています。



社内の連絡便仕分け業務の様子

ワーク・ライフ・バランスの推進

柔軟な働き方により仕事の成果を生み出す就業環境の整備

当社では、社員がワーク・ライフ・バランスを重視しながら、仕事の成果を生み出せるように、就業環境の整備を進めています。

健康でいきいきと働ける職場づくり

2010年から長時間労働の削減と有給休暇の取得促進に取り組んでいます。2016年は、週1回の「ノー残業デー」および月1回の「ノー残業週間」を実施しました。労働時間管理に対する理解促進のため、全従業員に対してe-ラーニングを毎年実施しています。また、目標である有給休暇取得60%の達成に向けて、労使協定締結のもと、年3日間を計画的に取得する取り組みを実施し、2016年の取得率が向上しました。今後も取り組みを推進します。

仕事と育児 両立支援施策

さまざまな制度の拡充と、社員への意識啓発の結果、女性社員の育児休業取得率は100%、男性社員も、幅広い部所で取得しています。さらに、「復職と育児の支援Webサイト」の開設、育児休業中のスキルアップ支援など、育児期のキャリア開発にも取り組んでいます。

[仕事と育児 両立支援施策]

URL http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/

関連情報 **ハイライト02** (p24-25)

仕事と介護 両立支援施策

従業員が安心して働き続けることのできる環境整備のひとつとして、介護従事者への支援を強化しています。通常の年次有給休暇のほか、医療介護積立休暇(年次有給休暇失効分の積み立て)、介護短時間勤務(ショートタイムフレックス制度)、介護休業365日(1日単位で取得可能)など、介護に関する制度を整備しています。同時に、40歳以上を対象に介護支援Webサイトを導入し、介護に関する情報提供の充実をはかっています。

[仕事と介護 両立支援施策]

URL http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/

関連情報 **ハイライト02** (p24-25)

在宅勤務制度

2015年より、働く場所を職場に限定しない柔軟な働き方として在宅勤務制度を導入し、業務の生産性向上とワーク・ライフ・バランスの改善に取り組んでいます。制度の理解と浸透をはかるため、説明会や個別の職場ヒアリングを繰り返し実施し、制度の利用促進効果の確認を行いながら拡充を進めています。

次世代法への取り組み

当社は、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を策定し、取り組んでいます。その結果、第1期から第4期まですべて計画を達成し子育てサポート企業の認定(くるみんマーク)を受けています。



次世代法第5期行動計画

第5期行動計画では、期間を3年間(2015年4月~2018年3月)に定め、4つの目標を掲げています。

次世代認定マーク「くるみん」

目標1 計画期間内に、育児休業中社員のスムーズな職場環境のための支援策を実施する。

→育児休業中社員のキャリアと育児の両立を支援する「復職と育児の支援Webサイト」を導入(2016年2月)

→職場復帰前の「復職前セミナー」を実施(2015年10月、2016年2月・10月、2017年2月)

→育児休業者と上司向けの個別制度説明会を開始(2016年1月)

目標2 計画期間内に、女性活躍推進に向けた社内風土醸成の施策を実施する。

→第4回キャリアフォーラムを開催(2015年11月)

→第5回キャリアフォーラムを開催(2016年7月)

→「ライオンの女性活躍本音で語る交流会」を開催(2016年6月)

目標3 計画期間内に、男性の育児休業取得者を13名以上にする。

→7名取得済み(2016年12月時点)

目標4 計画期間内に在宅勤務制度の理解、利用を促進し、制度定着のための支援策を実施する。

→職場ヒアリング、個別説明会を実施

社員関連データ(単体・出向者含む)

| | | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|----------------|----|--------|--------|---------------|
| 社員数 | 男性 | 2,292名 | 2,268名 | 2,239名 |
| | 女性 | 729名 | 758名 | 775名 |
| 女性比率 | | 24.1% | 25.0% | 25.7% |
| 新入社員数(新卒) | 男性 | 59名 | 56名 | 49名 |
| | 女性 | 25名 | 28名 | 29名 |
| 定年退職者再雇用 | 人数 | 289名 | 262名 | 250名 |
| | 率 | 9.6% | 8.7% | 8.3% |
| 臨時雇用者 | | 457名 | 461名 | 467名 |
| 女性管理職* | 人数 | 52名 | 57名 | 62名 |
| | 率 | 5.9% | 6.4% | 6.9% |
| 障がい者雇用 | 人数 | 43名 | 51名 | 55名 |
| | 率 | 1.8% | 2.0% | 2.2% |
| 育児休業取得者 | 男性 | 6名 | 5名 | 2名 |
| | 女性 | 37名 | 33名 | 53名 |
| 育児短時間勤務 | 男性 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | 女性 | 57名 | 58名 | 40名 |
| 月平均時間外労働時間 | | 11.7時間 | 11.0時間 | 11.1時間 |
| 年次有給休暇取得率 | | 50.8% | 51.8% | 55.1% |
| 平均勤続年数(再雇用者除く) | 男性 | 19.8年 | 19.8年 | 20.3年 |
| | 女性 | 17.7年 | 17.4年 | 18.0年 |
| 入社3年後までの離職 | 人数 | 2名 | 4名 | 7名 |
| | 率 | 1.0% | 1.6% | 2.8% |

* 2015年の女性管理職率に誤りがあり、数値を修正しました。

* 役職的には、課長以上に相当。

国内グループ会社の社員関連データはWebで開示しています。

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/various/>

従業員の健康管理の推進

従業員の自己管理の支援と安心・信頼して働ける健康な職場づくり

従業員の健康は「会社の健全な成長を支える経営基盤」との考えを基本とし、さまざまな施策を展開しています。健康指針を柱に、きめ細やかな健康管理活動を行っています。当社は、健康管理活動を「こころ」「からだ」「意識（健康の自己管理意識）」の3つのテーマに分けて、それぞれを年代別に健康管理施策を展開し、推進しています。

【健康指針】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/health.php>

【「こころ」「からだ」「意識」の取り組み】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/>

健康管理への組織的な取り組み

当社は全社健康管理責任者（人事部長）、健康保険組合、健康サポート室との合同会議、「健康管理推進委員会」での議論をふまえて健康管理活動を進めています。その中でPDCA管理を行い継続的に改善をはかりながら、産業保健のノウハウを蓄積しています。

「健康経営優良法人 ホワイト500」に選定



当社は、2017年2月に「健康経営優良法人2017ホワイト500」に選定されました。この制度は、経済産業省と東京証券取引所が主催の地域の健康課題に即した取り組みや優良な健康経営を実践している法人を表彰する制度です。今後も従業員の健康管理の推進に取り組みます。

メンタルヘルスへの取り組み

当社では2004年に「メンタルヘルス基本方針」を制定し、健康診断後の全員面談や2006年からはストレスチェックを実施するなど、積極的にメンタルヘルス対策に取り組んでいます。2016年は97%の社員がストレスチェック*1を受け、その結果は個人を特定できない形式で部所ごとに集計・分析し、担当役員へのフィードバックや、管理職教育での活用など、組織的なメンタルヘルスへの取り組みを継続しています。

歯科予防プログラム (ALPHA)

2002年度の定期健康診断より、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 (LDH) と協力して社員全員を対象とした歯科健診を導入しています。2016年からe-ラーニングシステム (L-navi) によるオーラルヘルスケア情報の提供や、唾液を使って、その場ですぐにむし歯と歯周病のリスク、口腔内の清潔度などが測定できる「唾液検査システム」を導入し、社員のオーラルヘルスケアへの予防意識の向上と健康行動の実践を目指した活動を行っています。

【ALPHA】 All Lion Oral Health Activity

【ライオン従業員の歯科データ】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/>

ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実

労働安全と設備安全を推進する仕組みづくり

当社では、「安全は、何事にも優先する」を基本に、厚生労働省の指針に基づく「労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) *2」に防災を付加した独自の「安全衛生防災マネジメントシステム」を国内グループ会社も含め、構築しています。

労働安全

2016年の労働災害件数は関係会社を含め18件となり、前年の21件に対して3件減少しました。休業災害については、5件となりました。

今後も安全に関する研修強化などを通じ、安全意識の向上をはかります。

安全研修に参加した従業員人数 (2016年)

| 千葉工場 | 小田原工場 | 大阪工場 | 明石工場 | 合計 |
|------|-------|------|------|------|
| 73名 | 87名 | 55名 | 98名 | 313名 |

また、海外グループ会社については、重大災害の防止に向けて安全衛生防災マネジメントシステム運用管理規程・設備安全設計要領等を基本とした仕組みの強化や、海外グループの従業員が日本の工場で安全防災研修を受けるなどオールライオンでの取り組みを推進しています。

設備安全

近年、他社で発生したプラント事故は、安全管理の形骸化や作業員の技能・意識の低さに起因していると考察しています。そのため、当社ではハード（設備管理）とソフト（運転管理）の両面からのアプローチにより、中・長期的な視点で「設備安全の強化」に取り組んでいます。

Webサイトのご紹介

従業員とともに
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/>



*1 ストレスチェック

従業員の心理的な負担を把握するための検査（労働安全衛生法の改正により2015年12月に義務化された）。

*2 労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)

PDCAにより継続的な安全衛生管理を自主的に進める仕組み。



目指す姿

「環境対応先進企業」としての 持続可能な社会の発展への貢献

基本的な考え方

当社は2011年に経営ビジョン「Vision2020」を発表しました。そのビジョンのひとつである「環境対応先進企業」を目指すための全社方針として、新たな環境目標「Eco Vision 2020」を2013年に策定しました。「Eco Vision 2020」をはじめ、当社の環境活動に対する考え方を表したのが「ライオンの環境への想い」です。ここから生まれた環境スローガンが

「暮らし、まいにち、エコ。」です。今後も「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」を目指した目標値の達成と合わせて、商品を通じたお客様への環境啓発などのコミュニケーションにも取り組みます。



[暮らし、まいにち、エコ。] [URL http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/](http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/)

環境方針

バリューチェーン全体で進める自主的・積極的な環境保全への取り組み姿勢

当社は環境方針を、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的、積極的に行動する」という「ライオン企業行動憲章」の精神に基づいて定めています。

2013年には、「Eco Vision 2020」の策定に合わせて環境方針を改定しました。「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」に対する当社の姿勢や海外への取り組み姿勢などを、より明確に表現しています。

環境方針

製品の開発から原材料などの調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までのすべての過程で「地球温暖化防止のための低炭素社会の実現」、「資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現」、「人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生」に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動します。

1. 持続可能な社会をめざす

環境マネジメントシステムを推進し、継続的な維持、改善により地球環境の保全を行う。

2. 法のおよびその他の要求事項の遵守

環境保全に関する法規制や取り決めを遵守し、自主的な行動基準を設定して実行する。

3. 環境目的、目標の設定と実施の検証

国内外における企業活動の環境影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、改善の目的および目標を設定するとともに、環境マネジメントプログラムを策定、実施し、その実施状況を定期的に検証する。

4. 環境配慮製品の開発

ライフサイクルアセスメントの視点に基づき自ら定めた「ライオンエコ基準」に則り、環境に配慮した製品開発を積極的に推進する。

5. お取引先との連携による環境負荷の低減

原材料調達先や外部生産委託先、販売先と連携し、仕入れからお客様への商品提供に至るまでのあらゆる段階で、環境負荷の低減に努める。

6. 自然との共生

生物多様性や大気・水環境に配慮した事業活動を行うとともに、自然環境保護活動に積極的に取り組む。

7. 全従業員への周知と環境保全活動の推進

関係会社を含め全従業員に環境方針を周知し、環境保全への意識高揚に努め、全従業員一体となって環境管理活動を推進する。

8. 情報公開の推進

事業を取り巻くすべてのステークホルダーとのコミュニケーションの推進に努める。また、この環境方針は自由な閲覧を可能にして、要望する全ての人々に提供する。

(2013年1月1日改定)

環境管理体制とマネジメントシステム

部所横断型の環境保全活動を進める仕組み

環境マネジメントシステム

当社グループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。

また、環境マネジメントおよび活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実をはかっており、海外グループ会社のデータをWebページにて公開しています。

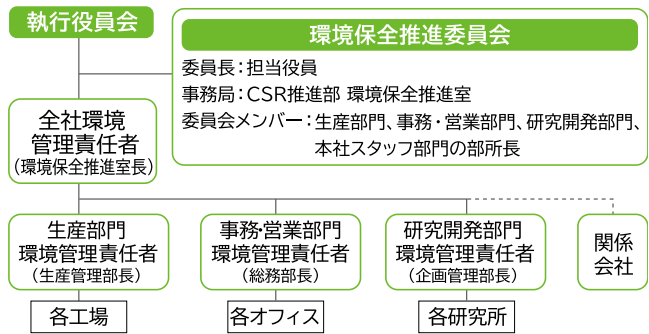
[関係会社工場環境負荷データ(海外)]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/environment-Management.pdf>

ISO14001 認証取得状況

当社は2001年7月に全工場一括でISO14001の認証を取得しました。2016年6月には、ISO14001の2015年版への更新を行い、日本能率協会審査登録センター(JMAQA)の審査により、全工場が基準に適合していることが確認されました。現在、最新版のISO14001で運用管理しています。国内および海外の生産系関係会社も含めて、全社的にISO14001の取得やISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。

環境管理体制



法規制の遵守

当社では、省エネ法*1および温対法*2、化管法*3、化審法*4、廃掃法*5など環境関連法規制の改正への対応については、行政や工業会などから提供される情報を環境保全推進室で収集後、化学物質関連法情報のイントラネット活用システムに登録し、関連する部門に周知・徹底しています。

また、独自の「廃棄物管理規程」などを定め、漏れのない管理体制を構築しています。2016年においても罰金、科料などを処せられるような違反はありませんでした。

汚染の予防

大気・水質に配慮した生産活動

当社は、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)およびばいじんや揮発性有機化合物(VOC)などの化学物質の排出量削減にも自主的に取り組んでいます。また、排水処理設備の安定化と定期的な保全により、化学的酸素要求量(COD)の低減にも努めています。

[生産系事業所環境負荷データ]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/>

化管法PRTR制度*6に基づく化学物質管理に関するデータは、Webページ上に公開しています。今後も対象物質の把握とともに排出量・移動量の削減に目標を立てて取り組みます。

[2016年度PRTR対象物質の排出量・移動量(国内グループ)]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/>

*1 省エネ法

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の略称。

*2 温対法

「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称。

*3 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称。

*4 化審法

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称。

*5 廃掃法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称。

*6 化管法PRTR制度

有害性のある化学物質の排出量などを把握し、集計・公表する制度。

ライオングループの化学物質管理の充実

化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠り事故が起きた場合、人々の健康や環境に大きな影響を与えるおそれがあります。当社では、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基づき、

製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、化学物質の安全管理を推進しています。

[化学物質管理]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/>

当社の化学物質管理

① 製品開発



原材料中の化学物質の
安全性確認と管理

② 生産



化学物質製造量の
把握と排出量の削減

③ 輸送



輸送時の
安全性情報の提供

④ 使用・廃棄



化学製品の安全性
および取り扱いに
関する情報の提供

先進的な環境への取り組み

地球課題をふまえた環境目標「Eco Vision 2020」の推進

Eco Vision V-2 (2015~2017年)の2年目の実績と今後の計画

「Eco Vision 2020」は、2012-2020年の9年間でV-1~V-3の3期3か年に分けて推進しています。2016年は、V-2 (2015-2017年)の2年目に入りました。前年

までと同様、ライオングループ従業員が一丸となって環境への取り組みを推進し、ほぼ順調に推移しています。

重要な5項目について

【国内の事業活動からの温室効果ガス排出量】

2016年の実績は43%削減(1990年比、売上高原単位)と前年の41%削減(同上)よりさらに削減することができました。前年に引き続き生産設備の集約や全事業所で省エネ活動を実施することにより、削減を推進しました。今後も2017年目標、2020年目標の達成に向けて取り組みを進めます。

【国内の事業活動での水使用量】

2016年の実績は49%削減(2000年比、売上高原単位)でした。生産プロセスの変更や全事業所での節水活動および下記の工場の製造工程排水リサイクルが寄与し、2020年目標の35%以上削減(同上)よりもよい水準で推移しています。今後も継続して削減に努めます。

【国内の商品使用後の温室効果ガス排出量】

排出削減のために、商品のコンパクト化や石油原料からCO₂の増加につながらない植物原料への切り替えなどを進めています。2016年の排出量は52%削減(1990年比、売上高原単位)と前年の49%削減(同上)よりもさらに削減することができました。今後も目標に向けて、同様の取り組みを進めます。

【工場排水のリサイクル】

目標「2020年までに複数工場で工場排水をリサイクルすること」の達成に向け、2015年は千葉工場において製造工程排水リサイクル設備が完成し、2016年に本格稼働しました。排水量はもちろん、水使用量についても上記のとおりさらなる削減に貢献しています。

関連情報 [ハイライト03](#) (p26-27)

【海外の事業活動からの温室効果ガス排出量】

2016年の実績は4%削減(2014年比、生産量原単位)、年平均では2%削減と目標の毎年1%削減を達成しました。タイ工場における稼働率向上や廃熱利用の実施が削減に寄与しました。今後も海外における省エネのための施策の立案に取り組み、実施します。

Eco Vision V-2 (2015-2017年)実績値と「Eco Vision 2020」目標値表

| 項目 | | 2016年実績値 | 2017年目標値 | 2020年目標値 | |
|----------|----------|---------------------------------|--|--|--|
| 低炭素社会の実現 | 温室効果ガス国内 | 事業所内 ①事業活動からの温室効果ガス削減 | 売上高原単位 27%削減(2010年比) 43%削減(1990年比) 絶対量 43%削減(1990年比) | 売上高原単位 23%削減(2010年比) 40%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比) | 売上高原単位 34%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 40%削減(1990年比) |
| | | 事業所外 ②商品使用後に排出される温室効果ガス削減 | 売上高原単位 8%削減(2010年比) 52%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比) | 売上高原単位 7%削減(2010年比) 52%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比) | 売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比) |
| | 温室効果ガス海外 | 事業所内 ③海外の事業活動からの温室効果ガス削減 | 生産量原単位 2年間で4%削減(2014年比) | 生産量原単位 毎年1%削減(2014年比) | 生産量原単位 毎年1%削減 |
| | | 事業所外 ④海外の商品使用後に排出される温室効果ガス削減 | 年間6.4万トン削減 | — | 年間10万トン削減 |
| 循環型社会の実現 | 水 | 事業所内 ⑤事業活動での水使用量削減 | 売上高原単位 34%削減(2010年比) 49%削減(2000年比) 絶対量 49%削減(2000年比) | 売上高原単位 15%削減(2010年比) 34%削減(2000年比) 絶対量 35%削減(2000年比) | 売上高原単位 15%削減(2010年比) 35%削減(2000年比) 絶対量 23%削減(2000年比) |
| | | 事業所外 ⑥商品使用時の水使用量削減 | 売上高原単位 23%削減(2010年比) 49%削減(2000年比) 絶対量 49%削減(2000年比) | 売上高原単位 15%削減(2010年比) 44%削減(2000年比) 絶対量 44%削減(2000年比) | 売上高原単位 17%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 33%削減(2000年比) |
| | 廃棄物 | ⑦事業所でのゼロエミッション*1 | 国内生産系全事業所でゼロエミッション継続 | — | 国内全事業所でゼロエミッション化 |
| | 排水 | ⑧工場排水*2のリサイクル | 千葉工場における製造工程排水リサイクル稼働 | — | 複数工場で工場排水をリサイクル |
| 自然共生 | 調達 | ⑨生物多様性に配慮した植物油脂の調達 | RSPO*3認証パーム油誘導体の継続購入 | — | 全購入パーム油誘導体のRSPO認証化 |
| | 生物多様性 | ⑩生物多様性保全活動の活発化 | ライオン単体全工場での実施、一部関係会社・オフィスでの実施 | — | 国内全事業所での実施 |
| 啓発 | 社会への意識啓発 | ⑪お客様への環境啓発活発化 | 啓発活動へのお客様参加人数の1.7倍増(2010年比) | 啓発活動へのお客様参加人数の1.8倍増(2010年比) | 啓発活動へのお客様参加人数の倍増(2010年比) |

*1 廃棄物総発生量の再資源化率を99%以上とする。ただし、再資源化の残さは含まない。

*2 製造工程で発生する排水。





*3 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)。

自然との共生

洗剤の使用と関係のある河川の発泡や富栄養化などの水環境問題に、古くから率先して対応してきた当社は、原材料調達から廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮してきました。しかし、将来にわたり生物多様性の恵みを享受するためには、地域社会などと連携して生物多様性の保全に取り組み、その恵みを使い果たすことのないよう、持続可能な利用を進める必要があります。また、生物多様性に配慮した製品を通して生活者のライフスタイルの変化を促し、自然共生社会の実現に向けて貢献することが重要です。

そこで当社は、バリューチェーンに沿って、事業活動で利用している天然資源や事業の生物多様性への影響を把握し、リスクの低減と機会の拡大につながる生物多様性保全活動を行うことで、事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。また、環境教育の一環として、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することにより、生物多様性保全に対する意識を全事業所に浸透させます。

当社の生物多様性保全に配慮した事業活動の全体像





| 当社が依存している生物多様性 | 原材料生産地の流域*生態系 | 各工場が立地する流域生態系 | 消費者が生活する流域生態系 | |
|---------------------|---|--|--|--|
| 対応するバリューチェーン段階 | 原材料調達  | 生産  | 消費者による使用  | 消費者による廃棄  |
| 当社が利用している主な天然資源 | ●使用原料となる植物(アブラヤシなど) | ●工場で使用する冷却水、設備洗浄水などの原水 | ●商品使用時の上水 | — |
| 当社の活動が生物多様性に与える主な影響 | ●パーム油農園の自然環境や地域社会への影響(熱帯雨林の違法伐採による野生生物の生息地への影響など) | ●工場での地下水などの取水による、周辺の自然環境や地域社会への影響 ●工場からの排水による周辺の自然環境や地域社会への影響 ●工場で使用する光や香りなどによる周辺の自然環境や地域社会への影響 | ●消費者の水使用による自然環境や地域社会への影響 | ●消費者の排水や包装材料の廃棄による自然環境や地域社会への影響 |
| 生物多様性保全活動 | リスクの低減につながる活動 ●持続可能なパーム油の調達の推進(RSPOへの参加、RSPO認証油の購入) → 関連情報 p43 | ●工場廃棄物の削減 → 関連情報 Web② ●工場の水使用量の削減 → 関連情報 Web② → ハイライト03 (p26-27) ●浄化技術を組み合わせた排水の放流による河川、海などの生態系保全 | ●節水型洗剤の開発 ●生分解性の高い洗剤の開発 → 関連情報 Web② | ●界面活性剤の環境への影響調査 → 関連情報 Web③ |
| | 機会の拡大につながる活動 | — | ●工場が立地する流域での生物生息地の保全とモニタリング(アカウミガメ保全活動、ピオトープ整備活動、海岸の外来植物駆除活動、里山整備活動など) → 関連情報 Web④ | ●水・自然環境の配慮に関する普及・啓発活動(「ライオンの森」の森林整備、「雨活アイデアコンテスト」の実施、「日本水環境学会」を通じた水環境研究支援) → 関連情報 p51 |





* 流域: 水でつながる森林、河川、里山、干潟、海浜などの生態系。

低炭素社会・循環型社会の実現

当社は、原材料調達から、廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの排出量削減や資源の循環利用・有効活用を進めています。詳細なデータはWebサイトに開示しています。今後も低炭素社会・循環型社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

当社の低炭素社会・循環型社会の実現に向けた事業活動の全体像

| 対応するバリューチェーン段階 | 原材料調達  | 当社での活動  | 消費者による使用  | 消費者による廃棄  |
|-----------------|--|---|--|---|
| 低炭素社会の実現に向けての活動 | <ul style="list-style-type: none"> ● 植物原材料の使用による石油資源の代替推進 ➡ 関連情報 Web① | <p>工場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産プロセスの見直し、設備更新時における省エネ機器導入、商品のコンパクト化などによるエネルギー効率の向上 ➡ 関連情報 p48 <p>オフィス・事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事務営業部門、研究開発部門など全社による省エネ活動 <p>出荷後の流通</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 商品輸送時のモーダルシフト化率向上 ● 積載率向上などによる物流効率の向上 ➡ 関連情報 Web① | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者への商品を通じた環境意識の啓発（エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与） ➡ 関連情報 p48 ● 節電型商品による商品使用時の電力使用量の削減（洗濯時のすすぎ回数が少ない） | <ul style="list-style-type: none"> ● 植物原材料の使用による石油資源の代替推進 ● 3Rの推進（つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発） ➡ 関連情報 p48, Web② |

| 対応するバリューチェーン段階 | 原材料調達  | 当社での活動  | 消費者による使用  | 消費者による廃棄  |
|-----------------|--|---|--|--|
| 循環型社会の実現に向けての活動 | <ul style="list-style-type: none"> ● 植物原材料（再生可能原料）の使用 ● リサイクル材料の使用 | <p>工場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業所でのゼロエミッションの推進 ● 工場排水量の削減 ● 水のリサイクルによる水使用量の削減 <p>オフィス・事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全社的にグリーン購入を推進 ➡ 関連情報 Web② | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者への商品を通じた環境意識の啓発（エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与） ➡ 関連情報 p48 ● 節水型商品による商品使用時の水使用量の削減 ➡ 関連情報 Web② | <ul style="list-style-type: none"> ● 3Rの推進（つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発） ➡ 関連情報 p48, Web② ● ハブラシリサイクルプログラムの推進 |

- Web① [低炭素社会の実現] [URL](http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/) <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>
- Web② [循環型社会の実現] [URL](http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/) <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>
- Web③ [自然との共生] [URL](http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/biodiversity/) <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/biodiversity/>
- Web④ [各事業所での生物多様性保全への取り組み] [URL](http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/) <http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/>

 **Webサイトのご紹介**

環境への取り組み
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/>

暮らし、まいにち、エコ。
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecolion/>





目指す姿

バリューチェーン全体でのCSR活動の推進

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」、「行動指針」に則り、「公正、透明、自由な競争、ならびに適正な取引」および「政治・行政との関係における健全で正常な関係の維持」に努めるとともに、取引先における法令遵守についても

要請しています。さらに、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明し、贈収賄などの腐敗の防止への姿勢を明確にしています。

CSR調達の推進

持続可能な原材料調達とサプライヤーへのCSR活動の働きかけ

当社は、バリューチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化することが重要な課題のひとつであると考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、取引先と当社とがCSR活動を深化させることが必要です。

また、当社が独自に開発した植物由来の洗剤原料である環境対応型界面活性剤「MES」に使われているパーム油については、持続可能なパーム油の調達を推進することが重要です。

【「MES」の優れた特長】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>

■ 原材料メーカーや生産委託先とのCSRの推進

当社は、責任ある調達活動を推進するため、原材料サプライヤーおよび生産委託先へ「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン*1」に基づくセルフチェックを毎年依頼しています。人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンスに関するサプライチェーンにおけるリスク回避に向けた仕組みづくりを推進しています。

2014年よりセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的に取引先が回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいた取引先に送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立しています。

今後も取引先とともにCSR活動の取り組みを推進します。

■ CSR調達の取り組み年表

| | |
|-------|--|
| 2005年 | 原材料や製品の適正な調達のための「購買に関する基本方針」を制定。 |
| 2008年 | 社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。 |
| 2013年 | 「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重などからも取引先を選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するCSR活動を示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のCSR活動のセルフチェックを依頼。 |
| 2014年 | CSRのセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化。 |

【調達基本方針】 URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

*1 ライオングループサプライヤーCSRガイドライン

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。

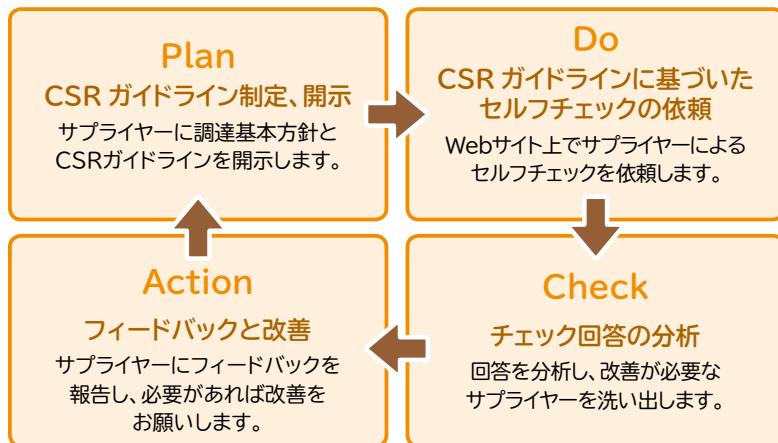
1. 人権・労働
2. 環境
3. 公正な事業慣行
4. 消費者課題
5. コンプライアンス

URL 日本語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>

英語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/eng.pdf>

中国語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/cn.pdf>

■ サプライヤーCSRセルフチェックにおけるPDCAサイクル



CSRの重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、CSRを取りまく情勢の説明を記載するなど工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

結果概要

- 2016年の回答率は94%、平均点は1~3点の3段階で2.73と、サプライチェーン全体でCSR活動に取り組んでいることが確認できました。
- 改善の要望をした9%のサプライヤーと未回答の6%のサプライヤーに対しては、ヒアリングなどを通じて協力をお願いしています。

■ 持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油脂であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。

パーム油は生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれともなう野生生物の生息地の縮小などの問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など、社会的公正を欠かさざるまな労使問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO*2)」に、当社は2006年から参画

しています。2012年には、パーム油が納入されるライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社は2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。当社は2015年末までに、使用するパーム油をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2014年7月より購入パーム油を全量認証油化し、目標を達成しました。2016年は2020年目標の達成に向けてRSPO認証パーム油誘導体を継続購入しました。

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

目標

2020年：パーム油誘導体全量をRSPO認証化



ライオンケミカル(株)のRSPOサプライチェーン認証

Webサイトのご紹介

お取引先様とともに
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/businessscustom/>



*2 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議) URL <http://www.rspo.org/>

RSPOでは、「環境に対する責任と資源及び生物多様性保全」「新規プランテーションにおける責任ある開発」「農園、工場の従業員及び、影響を受ける地域住民への責任ある配慮」などの持続的なパーム油生産に求められる8原則と基準を定めており、これを満たして生産されるパーム油のみを持続可能なパーム油として認証している。



目指す姿

安全で安心な商品づくりによる お客様満足への追求

基本的な考え方

当社は、ものづくりのはじめから、お客様が商品を使い終わるまでのすべての段階で品質保証活動を推進し、お客様に満足していただける商品をお届けします。具体的には、製品企画、製品開発、生産、販売、お客様対応という企業活動のすべての段階においてポイントを定め、お客様満足を追求しています。

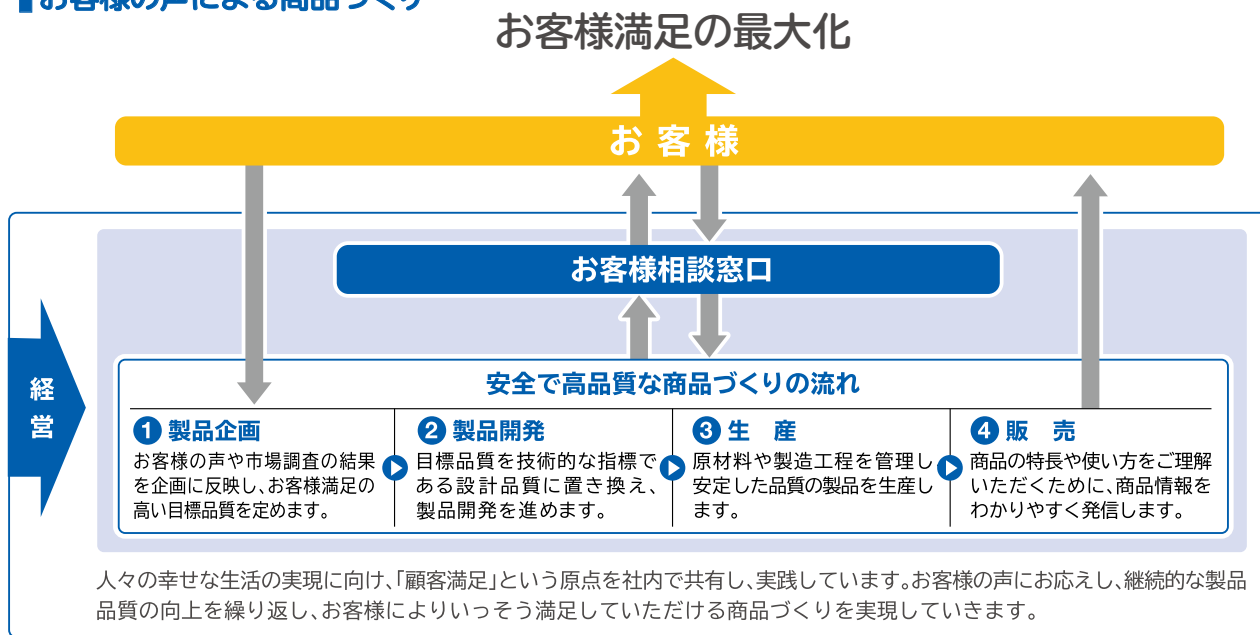
お客様からいただいた貴重なご意見などをもとに、ニーズをしっかりと把握して製品を企画し、製品開発

段階では、機能・性能などの7つの指標で品質を検証するとともに、お客様にとって「読みやすい」、「わかりやすい」表示を検討しています。

生産段階では、各工程で品質管理を徹底し、検査に合格したものを出荷します。出荷の際にはロット管理を徹底し、販売後の管理にも役立てています。

さらに卸店・販売店への商品説明や試供品の配布などを通じて、さまざまな情報を発信しています。

お客様の声による商品づくり



ライオングループの品質保証体制の充実

国内・海外における、安全で高品質な商品づくりの仕組みの充実

「日々の暮らしに役立つ優良製品の提供」を実践するために、2008年に制定した「品質方針」に基づく品質保証体制を整え、お客様のご要望に応える安全で高品質な商品づくりを推進しています。2014年に、日用雑貨から医薬品、食品までの広範囲な分野に加え、海外グループ会社を含めたオールライオンの品質保証体制および開発支援体制を

構築するため、「薬事・品質保証部」（薬事部と品質保証部を一本化）を設立しました。機能性表示食品の伸長や国内外のグループ会社の事業規模の拡大にともなって多様化するお客様の要望や、社会的な品質要求レベルの高まりに応え、安全で高品質な商品をお客様にお届けします。

安全で高品質な商品づくり

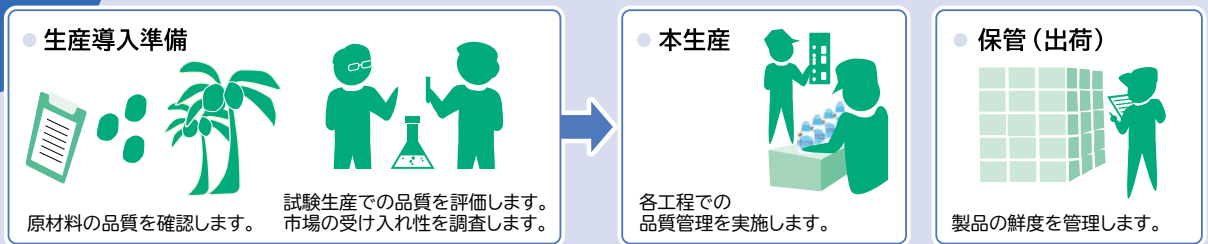
① 製品企画 お客様により満足していただける商品を企画



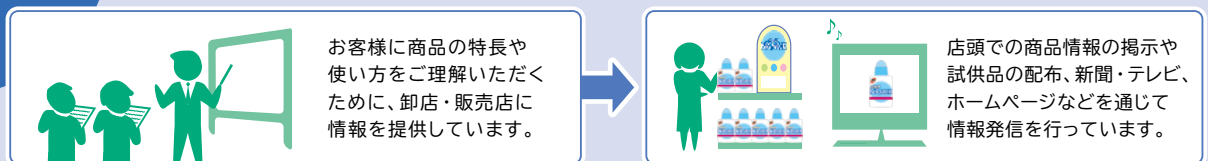
② 製品開発 品質・安全に留意した製品の具現化



③ 生産 量産体制での品質確認



④ 販売 商品品質の情報提供



安全・安心への取り組み

お客様に商品を安心してお使いいただけるよう、原材料および商品使用時の安全性について評価しています。

原材料の安全性

原材料は、まず安全性を調査確認した上で、さらに一定の品質を確保するためにサンプル評価や相手先調査などを実施後、使用の可否を決定します。使用に際しては、医薬品、医薬部外品・化粧品、食品、雑貨に区分し、それぞれの区分に見合った検査項目と試験法に基づいて品質検査を実施後、使用しています。

商品使用時の安全性

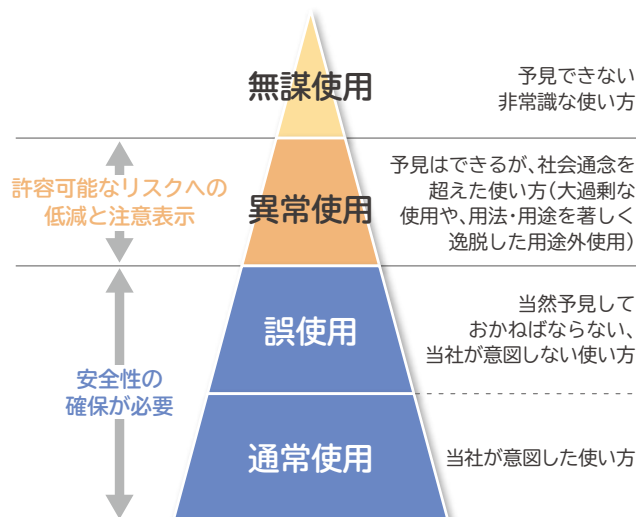
お客様のさまざまな商品の使い方や弱者の方々に配慮し、製品設計にてリスクを回避するという考えのもと、製品の安全性評価を実施しています。

評価はチェックシートを用い、「通常使用」～「誤使用」までの安全性が製品設計にて確保できているかを確認します。「異常使用」の場合であっても、リスクの低減が可能かどうか、リスクは許容できるかどうかを評価し、必要に応じて注意表示を十分に行うなど製品の安全性確保へ反映させています。

また、関連する部門から構成される品質確認検討会において、商品の使用に関わる被害の防止、安全性を確認すべき項目の抜け防止を目的に、お客様の使用場面を想定した視点からのチェックを実施しています。

万が一の製品トラブルが生じた場合に備え、製品リコールなどが迅速にできるよう社内体制を整備しています。

安全性確保の範囲



広告管理体制の強化

当社は2016年、特定保健用食品の広告表示において、一般消費者の誤認を引き起こす広告を掲載したとして、消費者庁より勧告を受けました。このことを真摯に受け止め、広告管理体制を強化しました。

具体的には、

- ①食品を含む当社全製品分野の広告チェック体制強化
 - ②消費者庁などの行政相談の適宜実施
 - ③社員への法規教育の徹底
- を行い、再発防止策を徹底的に推進しています。

今後も責任ある広告活動推進に向けて広告管理体制の強化に努めます。

お客様の声にお応えする取り組み

お客様からいただいたご相談は、製品の改良や新しい製品の開発、サービスの向上に活かすために、厳重な個人情報管理体制のもとでデータベースに登録した後、個人情報を除いて情報共有化システムにて全社で共有しています。なかでもお客様満足に影響を与えると思われるものはVOC*1 デイリーレターとして経営層に日々報告し、お客様視点の把握や企画部門を中心に改善策の早期検討・早期対応による品質向上に努めています。2016年は241件のVOC デイリーレターを発信しました。また、電話やメールなどで寄せられるお客様の声のみならず、SNS*2 などからも生活者の声を幅広く集め、解析をしています。さらに、お客様視点を事業活動に活用していくため、専任組織がお客様の声を分析し、社内の各部門へ積極的に情報発信しています。

*1 [VOC] Voice of Customer(お客様の声)

*2 [SNS] Social Networking Service(Facebook, Twitterなど)

バルサン氷殺ジェット回収状況

『バルサン 飛ぶ虫氷殺ジェット』『バルサン 這う虫氷殺ジェット』は、引火事故が発生し、2007年8月27日より自主回収を実施しております。2017年2月末現在、148万本(回収率45.7%)を回収しております。お手元に当該製品をお持ちの方は、回収にご協力くださいますようお願い申し上げます。



バルサン氷殺ジェット回収専用
お客様相談窓口

電話(フリーダイヤル): 0120-670-225

受付時間: 午前9時～午後5時

(土・日・祝日、年末年始、夏季休暇を除く)

「消費者志向自主宣言」

行政機関、消費者団体、事業者団体が一体となり、企業の消費者志向経営の取り組みを促進しております。当社においても、2017年1月、消費者志向経営への積極的な取組を自主宣言し、その進捗を消費者庁に報告しています。

【消費者志向自主宣言】 [URL](http://www.lion.co.jp/ja/company/consumer-orientation/) http://www.lion.co.jp/ja/company/consumer-orientation/

くらしに役立つ生活情報の発信と啓発活動

健康で快適な生活に貢献する生活情報づくりと発信

ライオン快適生活研究所では健康で快適な生活に寄与する生活情報づくりと発信の拡大を目指し、生活者の皆様と積極的にコミュニケーションをはかっています。



健康関連イベントでのオーラルケアセミナー



生活情報メディア「Lidea」を活用したお客様とのコミュニケーション

Lideaは、「日々のくらしを快適にする」そして「ココロが彩られるような楽しいidea (=知恵や情報) を皆様と共有する」ための生活情報メディアです。専門知識を持つ生活情報のスペシャリスト「暮らしのマイスター」が中心となって、皆様のくらしに寄り添った確かな情報を提供しています。



ライオン Lidea 検索

Lideaに蓄積された情報を活用して、さまざまな形で生活者とのコミュニケーションを深めていきます。

生活情報を紙面にまとめ、生活者に提供



知っ得情報

生活者からお寄せいただくお問い合わせ内容などを分析し、ニーズに合わせた生活情報を紙面にまとめて提供しています。

生活者との双方向コミュニケーション



Lideaファンパーティ

イベントなどを開催し、生活者に対して直接情報を発信したり意見交換を行っています。

メディアを通じた情報発信の拡大



生活情報懇談会

TV・新聞・雑誌などの記者に対して、定期的に生活情報セミナーなどを開催しています。

海外の生活者への情報発信



海外グループ会社(台湾Webサイト)

各国・地域の生活習慣に合わせ、生活情報を海外グループ会社のWebサイトに掲載しています。

持続可能な社会の発展に貢献する商品・情報の提供

社会・環境への負荷の小さい商品の開発と啓発活動

3Rの推進

当社は、容器・包装材料削減のための取り組みとして、3R (Reduce: 使用量削減、Reuse: 再利用、Recycle: 再資源化) を積極的に推進しています。

[ライオンエコ基準]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>



商品を通じた環境コミュニケーションの推進

当社は、生活者に商品を通じて環境配慮の重要性を啓発するため、製品のライフサイクルの視点から評価項目を設定した「ライオン エコ基準」をクリアした商品に、「環境ロゴ」と環境に配慮した点を併記した「環境ラベル」を2014年より付与しています。

[暮らし、まいにち、エコ。] (エコ商品の紹介)

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>

「環境ラベル」付与商品例



『CHARMY Magica』本体



『トップスーパー-NANOX』本体・つめかえ



『トッププラチナクリア』

情報セキュリティ対策の推進

個人情報の保護と情報漏えい予防への取り組み

当社は「個人情報保護法」に準拠した「個人情報管理規程」「情報取扱に関する基本方針」「情報管理規程」「情報セキュリティ規程」のほか、ソーシャルメディア(ソーシャルネットワークサービス、ブログなど)を従業員が利用するにあたり、適切な情報発信に努めるため、「ライオングループソーシャルメディアポリシー」および遵守すべき基本的なガイドラインを定め、個人情報保護と情報セキュリティの徹底をはかっています。

2015年には、社内の情報管理体制の強化を目的に、関連規程の改定をし、2016年は引き続きソーシャルメディアのリスク、情報セキュリティ、情報管理体制に関するe-ラーニングを全従業員が実施しました。

また、海外グループ会社においても、法令に基づき個人情報保護などの情報セキュリティを推進しています。

[ライオングループ ソーシャルメディアポリシー]

URL <http://www.lion.co.jp/smp.htm>

Webサイトのご紹介

お客様とともに
URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/>





目指す姿

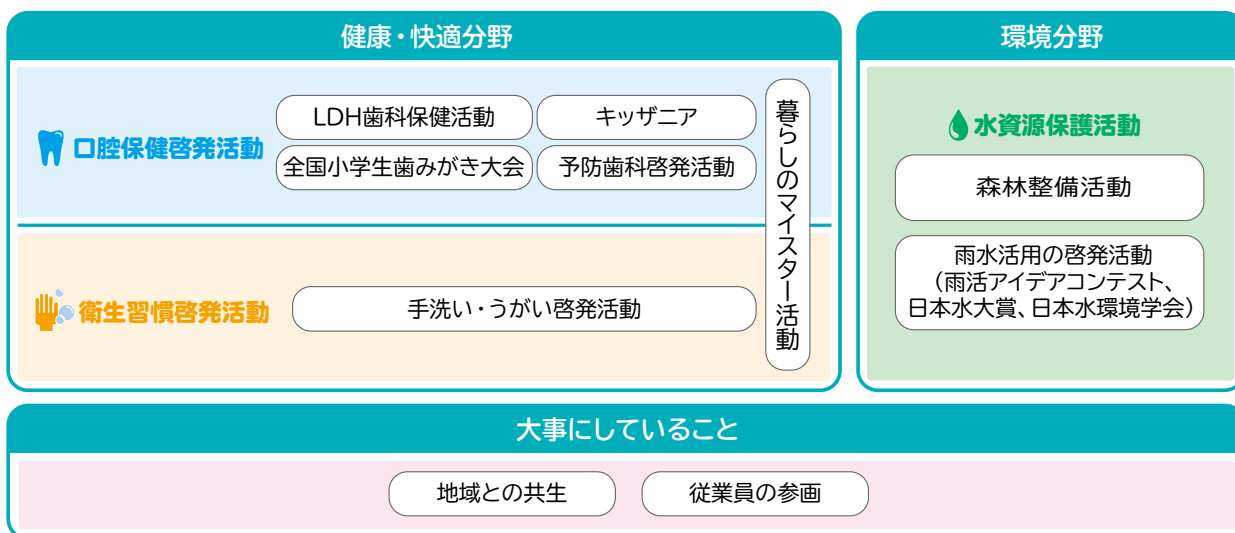
社会や地域との共存共栄／ 健康・快適・環境分野での社会の 発展への貢献

基本的な考え方

当社は「事業を通じて社会に貢献する」という創業者小林富次郎の精神を受け継ぎ、一人ひとりの価値ある未来につながっている今日のお役に立つため、健康で快適な社会・環境に貢献する活動に取り組んでいます。また、当社の事業を継続するためには、事業所の所在地などゆかりのある地域との共生が必要であること

から、地域の住民の方々や行政、市民団体などと連携をはかり、地域社会の課題解決に取り組んでいます。さらに、事業に関連した社会・環境貢献活動に従業員一人ひとりが参画する機会を増やすことで、高い社会・環境意識をベースに新しい価値を生み出す人材の育成につなげます。

当社の社会・環境貢献活動



【口腔保健啓発活動】 URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/oral/>

【衛生習慣啓発活動】 URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/washing/>

【水資源保護活動】 URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/>

健康・快適分野

健康・快適な生活習慣づくりに役立つ商品の提供とともに、口腔保健、衛生習慣の啓発活動を行っています。

歯科医院などでの「プロケア(プロフェッショナルケア)」と毎日の「セルフケア」の両方を継続的に行う「予防歯科」の啓発活動、小学生を対象とした「全国小学生歯みがき大会」や、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)が推進する母子、学校、高齢者などを対象とした歯科保健活動への支援、従業員が参加して実施する「手洗い・うがい啓発活動」などを中心に取り組んでいます。

また、海外グループ会社においても啓発活動に積極的に取り組んでいます。

関連情報 **ハイライト01** (p18-23)、p50-51

【海外グループ会社の社会貢献啓発活動】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/overseas/>

環境分野

当社は「洗うこと」を通じて、常に水との深い関わりの中で事業を展開していることから、「水資源保護活動」に重点を置いています。雨水活用の取り組みによる社会への環境意識の啓発、山梨市での森林整備活動などがあります。

関連情報 p51

健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実

財団を通じた口腔保健啓発活動

当社は、「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業当時から一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。1964年に厚生省（当時）認可の財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)を設立し、2010年には内閣府から公益財団法人への移行認定を受け、公益財団法人としてスタートしました。LDHは引き続き、日本歯科医師会、大学、行政などと連携しながら下記の3つの公益事業を通じ、生活者の歯と口の健康を保持増進し、すべての人々の生活の質の向上に結びつけられるよう口腔保健の最前線で社会に貢献しています。当社はその活動を全面的に支援しています。



「全国小学生歯みがき大会」に参加した小学校

LDHの3つの公益事業

1. 口腔保健普及啓発事業

すべてのライフステージでの口腔保健の普及啓発活動

2. 調査研究事業

健康寿命の延伸に向けた口腔保健の重要性に関わる調査研究ならびに各事業や活動を通じて得られた研究成果の専門家や生活者への情報発信

3. 教育研修事業

保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を開催

[公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所]

URL <http://www.lion-dent-health.or.jp/>

全国小学生歯みがき大会

1932年から続いている「全国小学生歯みがき大会」は、小学生を対象に、毎年「歯と口の健康週間」の時期（6月4日～10日）に合わせて開催しています。2016年の第73回大会は、インターネット配信により、日本全国ならびに、アジア8カ国・地域からの参加を合わせ、計1,729校、約9万名の小学生が「健康な歯ぐき」について楽しく学びました。

累計 **108万**名

2016年のLDHの主な社会貢献活動



母子歯科保健活動

妊婦、乳幼児および園児とその保護者を対象に「歯と口の健康」を通じた子育て支援活動を実施。

参加者：乳幼児・園児 685名、
保護者 716名

累計 **114万**名



学校歯科保健活動

児童・生徒や保護者に対する直接的な啓発活動と、保健指導者の活動に対する支援を実施。

参加者：児童・生徒 7,105名、
保健指導者 2,407名

累計 **2,327万**名



成人（産業）歯科保健活動

就業者を対象に、歯周病の予防と歯と口の健康の保持・増進に重点を置いた指導を実施。

受診者：27,562名

累計 **207万**名



高齢者歯科保健活動（2007年～）

いつまでも自分の歯と口で食べることができるように口腔機能の保持につながる支援を実施。

参加者：17,110名

累計 **2万7千**名



診療活動

リスクコントロール・デンティストリー*の考えに基づき、専門性が高く、質の高い診療および予防歯科活動を実施。

受診者：11,435名

累計 **184万**名

累計は財団設立（1964年）からの積算値

*リスクコントロール・デンティストリー

一人ひとりのむし歯や歯周病のリスクに応じてケアの方法を変えるオーダーメイドの歯科治療。

衛生習慣啓発活動

当社は、生活者の皆様の健康・快適な毎日を目指して、『キレイキレイ』ブランドを中心とした正しい手洗い・うがい習慣の浸透活動に取り組んでいます。

当社は「従業員が主体的に活動すること」を方針としており、2050年までには100%の社員が手洗い啓発活動に参加していることを目標としています。2012年-2016年の間に571名の社員が参加しました(22%)。

全国の事業所所在地、被災地であり創業者のゆかりの地でもある宮城県石巻市、『キレイキレイ』ハンドソープの生産拠点である香川県坂出市などを主な活動地域とし、幼稚園・保育所、公共施設などで手洗い啓発活動を行っています。また、お取引先様と連携した活動や若手社員の人事研修に幼稚園・保育所での手洗い啓発活動を組み入れ、社員の意識向上にもつなげています。さらに、『キレイキレイ』販売国であるアジア各国でも手洗い啓発活動を行っています。

行政との連携も推進しており、当社は2014年に、坂出市とハンドソープの生産拠点であるライオンケミカル(株)と連携して「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクトを立ち上げ、継続的に坂出市民の衛生習慣の浸透・定着を目指して活動を推進しています。

【「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクト(手洗い啓発活動)】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/washing>

関連情報 **ハイライト01** (p18-23)

災害時の清潔健康ケアの取り組み

特に健康に留意することが重要となる災害時の清潔・健康ケア情報の提供にも取り組んでおり、「災害時の清潔・健康ケア」パンフレットを作成しました。

今後も、清潔衛生習慣の定着に貢献します。

「災害時の清潔・健康ケア」パンフレット

URL <http://www.lion.co.jp/ja/emergency-care/>



Webサイトのご紹介

ライオンの社会貢献活動

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/>

東日本大震災におけるライオンの取り組み

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/reconstruction/>



水資源保護活動

当社は「洗うこと」を通じて、常に水と深く関わってきました。水資源保護活動としての森林整備活動、身近な水資源である雨水の活用の推進・啓発などに、積極的に取り組んでいます。

「ライオン山梨の森」森林整備活動

2006年から「ライオン山梨の森」で従業員の環境意識の醸成を目的に、水源である森林の整備活動を行っています。2016年は新入社員研修と森林整備ボランティア(3回)に、のべ157名の社員が参加しました。



参加社員数 **累計 1,253名**(のべ)

【ライオン山梨の森】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/forest/>

「雨活アイデアコンテスト2016」の開催

全国の小中学生に、雨水の活用方法を考えることで水の大切さに気付いてもらうことを目的に、2011年から「雨活アイデアコンテスト」を開催しています。個人賞の表彰のほか、優秀な作品を数多く応募していただいた小学校など2団体に団体奨励賞として雨水タンクの贈呈も行っています。



応募作品数 **累計 38,821作品**

【ライオン 雨の恵みひろば】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/rain/>

工場見学への取り組み

工場見学はお客様と当社を結ぶ大切な接点のひとつと考えています。当社製品に親しみを持っていただき、安全・環境保全を第一とする操業状況をご覧いただくため、毎年多くの方に工場見学に来ていただいています。

| 2016年度 工場見学の 内訳 | 工場 | 千葉 | 小田原 | 大阪 | 明石 | 合計 |
|-----------------------|----|--------|--------|------|--------|---------------|
| 見学回数 | | 88回 | 95回 | 38回 | 90回 | 311回 |
| 見学者数 | | 2,217名 | 2,164名 | 838名 | 2,501名 | 7,720名 |



小田原工場の工場見学の様子

第三者所見



ライオングループの活動は、事業を通じて商品の提供とともに、生活者の誰もが必要とするよき習慣づくりに貢献されてきました。事業を行う上でバリューチェーン全体を俯瞰し、商品の作り手や関係者、そして商品を使用されるすべての方にとって、CSRの取り組みは当然ながら関係します。今回のライオンCSR報告書では、オールライオンでの重要課題を特定しながら、国内外全体の活動がさらに見えるように報告されています。

まずハイライト01にもあるように、「衛生習慣啓発活動」において、各国での活動を具体的により身近に感じられるような報告がなされています。国や地域によって習慣は様々ですが、その特徴を踏まえつつ、小さい頃からの手洗い習慣の定着に向けて、気づきと楽しさから自発的に行うための工夫が数多く拝見できます。まさに、事業を通じた社会貢献活動の推進に繋がっていると言えるでしょう。

ハイライト02の「仕事と介護・仕事と育児 両立支援への取り組み」では、両立のための支援策に力を入れており、特に「介護に必要な期間取得できるショートタイムフレックス制度」の導入では、多くの企業が上限を設けている中、上限なしの新しい制度を導入しており、先駆的に果敢に挑戦なさっています。また、出産退職率が高い日本において、復職と育児の支援も手厚く100%の従業員が出産後職場復帰という実績からも、従業員に真に寄り添う姿が現れています。さらに、障がいをもつ方を積極的に雇用するための特例子会社の設立など、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティへの取り組みも評価出来ます。

それから、環境社会的課題は多々ありますが、水資源については今後も地球レベルで重要な課題となることでしょう。その中でいかに地域に根ざしつつ、製品の企画・開発から生産工程、排水・使用に至るまで多角的に考慮していくかが求められます。ハイライト03の「千葉工場排水リサイクルシステムの本格稼働」では、製造工程排水をリサイクルし、水使用量削減に貢献するシステムを取り入れることで、自然に戻す排水への配慮のみならず、循環させる画期的取り組みがなされており、今後の効果が期待出来ることでしょう。また、環境目標「Eco Vision 2020」の推進の結果、各方面で高い実績を達成していますので、出来る範囲で目標を前倒ししながら、積極的な目標を新たに掲げることで、業界全体の底

上げに寄与されるのではないのでしょうか。消費者課題とコミュニティへの参画及び発展については、例年に続いて広がりを見せており、本業を活かしたより良いコミュニケーションが深められていますので「Lidea」やWebなども合わせて読者が訪れることをお勧めします。

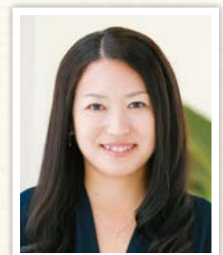
バリューチェーンに沿った人権や持続可能な原材料の調達については、事業が自然資本に依存している側面からもグローバルに展開する上で配慮が必要となります。その点でも、経営ビジョン「Vision2020」V-2期として、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえて、達成に向けた課題解決と新たな価値創造に向けた取り組みが成されてきました。CSR重要課題の2017年目標に対する2016年実績をはじめ、今年はさらに各国とのCSR情報の共有が深まり、海外に関する情報開示が拡充されています。リスク面の把握と共に、社会面でも海外との連携が強化されており、経営の透明性の観点からも、引き続き充実されることで素晴らしい展開へと繋がるのではないのでしょうか。

地球も人も健康でなければ私たちのくらしも事業も継続出来ません。そしてCSR経営において、その時代に必要なサービスや未来に向けて今取り組むべき課題に挑戦することが求められます。ライオングループはこれらに創業から事業を通じて応え続けながら、モノとコトを組み合わせる「新結合」による新しい価値を創造し、次のステージへと飛躍されつつあります。地球の現場や人々の声に耳を傾けながら、背景に広がる様々なストーリーにも想いを馳せ、CSR経営と「人を想うところ」の環がさらに広がることを期待しています。

環境専門家
エシカルライフアドバイザー

山口真奈美

株式会社 FEM 代表取締役
環境ビジネス総合研究所 理事長
一般社団法人 日本エシカル推進協議会 理事



ライオンから



ライオンは、「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神のもと、時代とともに変化する社会課題に対し、求められる社会的役割を認識し、応えつづけてきました。

今後も事業を通じて社会の持続的な発展に貢献するためには、CSRが経営に組み込まれていることが重要であると考えます。当社は、オールライオンのCSR重要課題を特定し、経営計画と連動した中期目標に基づき進捗管理をしています。

第三者所見で評価していただきましたが、海外グループ各社の定期的なCSR状況把握や情報共有を社内で体系化し、オールライオンのCSR実績の報告を拡充しています。

一方で、CSRに関するリスク面の把握および社会面の連携強化を目指し、今後もオールライオンのCSRマネジメントの強化をはかります。

また、当社のワーク・ライフ・バランスおよびダイバーシティへの取り組みについても評価していただきました。中でも、「介護に必要な期間取得できるショートタイムフレックス制度」の導入を先駆的な挑戦とご紹介いただきました。CSR経営の中核である従業員が、仕事と介護・育児などを両立しながら安心して働くことを目指し、ライフステージに応じた制度の拡充を積極的に進めると同時に、制度を取得しやすい職場風土づくりにも取り組んでまいります。

水資源について、地域に根ざしつつ、製品の企画・開発から生産、使用に至るまで多角的に考慮することが求められる、とアドバイスをいただきました。当社は、ライフサイクル全体での水資源保護活動に取り組んでおり、節水型製品の企画・開発から生産工場における排水のリサイクル、生活者の皆様への「水の大切さ」の啓発を推進しています。

また、より高い環境目標の検討についてご指摘いただきました。進捗が進んでいる項目の更新を含め、今後パリ協定やSDGsなどの社会情勢をふまえた、人々の暮らしの中で貢献できる長期的な環境目標を検討していきます。

一人ひとりの価値ある未来に向けて、健康で快適な暮らしを守る活動を続けるとともに、ステークホルダーの皆様との対話により、社会課題を的確にとらえ、当社の社会的な責任を果たしてまいります。



取締役
CSR担当役員

小林 健二郎

編集後記

当社は、海外グループ会社を含む、オールライオンでのCSR活動の体系化を進めています。

CSR報告書2017およびWebページにて、海外でのCSRの取り組みについて、情報開示をさらに拡充しました。その一つが、2016年のハイライト「ライオングループの国内外での衛生習慣啓発活動」です。アジア各国で『キレイキレイ』ハンドソープを通じて行っている手洗い啓発活動について紹介しています。

ライオングループが、アジアの各国・地域で行っている社会貢献活動については、Webページにて詳しくご紹介しています。あわせてご覧いただければ幸いです。



Network Japan
WE SUPPORT



ライオンは先進的な環境への取り組みが評価され、環境大臣より「エコ・ファースト企業」として認定されています。

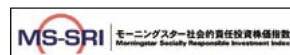


環境にやさしい商品開発を推進し、社会に貢献します。
エコ・ラベル



FTSE4Good

当社はグローバルな社会的責任投資指標であるFTSE4Good Global Indexに選定されています。



モーニングスター社会的責任投資評価指数
Morningstar Socially Responsible Investment Index



読みやすさを追求した書体



今日を愛する。

LION

発行者

ライオン株式会社

発行：2017年6月30日

次回発行予定：2018年6月

お問い合わせ先

ライオン株式会社 CSR推進部

〒130-8644 東京都墨田区本所1-3-7

[ホームページ] <http://www.lion.co.jp/>

[TEL] 03-3621-6611

[FAX] 03-3625-8625